

法政大學講義録

山脇, 貞夫 / 岡, 八 / 水野, 鍊太郎 / 松浦, 鎮次郎

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

19

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

50

(発行年 / Year)

1904-10-06



（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可）
（毎月十四日三五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行）

明治三十七年十月六日發行

特別法ノ十九

法政大學講義録

第百拾餘號



法政大學發行

特別法第十九號目次

市制町村制 (至百三)

法學士 松浦鎮次郎

著作權法 (至百三三)

法學博士 水野鍊太郎

公證人規則 (至百八九)

法學士 山脇貞夫

執達吏規則 (至百二四七)

法學士 岡八

雜報

○市外ニ於ケル營業ト市税ノ賦課○郡制ニ依ル訴訟期間ト有恕○
懲戒裁判ニ關スル郡長ノ審問及ヒ場所○金銀ノ授受ナキ前ニ作成
シタル消費貸借公正證書ノ效力

稟告 本號ハ三日ニ發行スヘキノ處但シ續録完結
ノ際ニ際シ同願ノ都合ニ上日ニ過下ケル

090
1903
5-19

可ニ依ル使用權即チ優等ナル公法上ノ使用權ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得
此處ニ所謂制限ノ中ニハ權利ノ範圍其モノノ制限ノミナラス使用料ヲ増額ス
ル等ノ場合ヲモ包含スルモノトス猶ホ使用權ニ關シ不服アル者ハ使用料ニ關
スル不服ノ場合ヲモ含ム市ニ在ラハ市參事會ニ訴訟シ猶ホ不服アレハ府縣參
事會ニ訴訟シ而シテ其裁決ニ不服ニシテ且權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得町村ニ在ラハ町村長ニ訴訟シ猶ホ不服アレハ
郡參事會ニ訴訟シ猶ホ不服アレハ府縣參事會ニ訴訟シ而シテ其裁決ニ不服ニ
シテ且權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
市町村有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘ
キヲ原則トス但シ臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價格カ其費用ニ比シテ得失
相償ハサルトキ又ハ特ニ市町村會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ非ス
市町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ト同シテ毎年四月一日ヨリ翌年三月末日
迄トシ市參事會町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ年
度前二箇月以前ニ歳入出豫算表ヲ調製スルキモノトス豫算表調製ノ式ニ至テ

市制町村制 自治體ナル市町村 市町村ノ行政

ハ内務省令ノ定ムル所ニ依ル豫算表ハ會計年度前市町村會ノ議決ヲ取リ市ニ在ラハ府縣知事町村ニ在テハ郡長ニ報告シ並ニ地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告スヘキモノトス尙ホ豫算表ヲ市町村會ニ提出スルトキハ市參事會町村長ハ併セテ其市町村ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出スルヲ要ス豫算ハ將來ノ收入支出ヲ見積リタルモノニ過キサルカ故ニ時トシテハ豫算ニ見積リタル以外ノ費用ヲ要シ又ハ豫算ニ不足ヲ生スルコトアルヲ免レス如斯キ場合ニハ特ニ市町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得レトモ一一市町村會ノ認定ヲ得ルハ不便ナルカ故ニ豫算中ニ豫メ豫備費ヲ設ケ市參事會町村長ニ於テ一一市町村會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但シ市町村會ニ於テ一旦否決シタル費途ニ充ツルカ爲ニ同年度ニ於テ豫備費ノ支出ヲナスコトヲ得サルモノトス豫算ハ一箇年度ノ歲計ヲ見積ルモノナルカ故ニ法ニ特別ノ規定アルニ非サレハ繼續費ヲ設ケルヲ得ス而シテ市制町村制ニハ何等特別ノ規定ナキカ故ニ市町村ノ豫算ニ於テ繼續費ヲ認ムルヲ得サルコト勿論ナリトス市町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ市ニ在

テハ市長町村ニ在テハ町村長ヨリ其曆寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付スルモノトス但シ其豫算表中監督官廳若ハ參事會ノ許可ヲ受クヘキ事項アルトキハ先ツ其許可ヲ受クルヲ要ス又ハ市長町村長ノ命令ヲ受クルモノニ非サレハ支拂ヲナスコトヲ得ス又收入役ハ市參事會町村長ノ命令ヲ受クルモノ其支出カ豫算中ニ豫定サレタルモノニ非サルカ又ハ其命令カ法規ニ違反セル場合ニハ支拂ヲナスコトヲ得ス之ニ反セル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸スルモノトス又ハ市長町村長ハ市町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クトモ一回臨時検査ヲナスヲ要ス例月検査ハ市町村長又ハ其代理者之ヲナシ臨時検査ハ市町村長又ハ其代理者ノ外市町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス又ハ市長町村長ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市參事會町村長ニ提出シ市參事會町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ之ヲ市町村會ノ認定ニ付シ市長カ收入役ノ事務ヲ兼掌スル場合ニハ町村長ヨリ直チニ之ヲ町村會ニ提出シ如斯クシテ市町村會ノ認定ヲ經タルトキハ市ニ在

ヲハ市長ヨリ府縣知事ニ町村ニ在ラハ町村長ヨリ郡長ニ之ヲ報告スヘキモノトス而シテ此場合ニ於ケル市町村會ノ認定ハ決算ノ正當ナルコトヲ認ムル市町村會ノ意思ヲ表示スルモノニシテ決算其モノノ效力ヲ生セシムル原因ニアラス決算ハ決算トシテ市町村會ノ認定ノ有無ニ拘ラス存在スルモノナルカ故ニ市町村會ニ於テ之カ認定ヲナササル場合ニ於テモ市町村長ハ其決算ヲ監督應ニ報告スヘキコト勿論ナリトス尙ホ市町村會ニ於テ決算ヲ認定セス違法不當ノ支出アリトナスカ如キ場合ニハ之カ爲ニ當事者ノ處置ヲ非難スル意見書ヲ提出スルコトアルヘク又市町村會ニ於テ認定ヲナスト否トニ拘ラス違法不當ノ支出アルカ爲ニ市町村吏員ニ於テ賠償ノ責ニ任セサルヘカラサルカ如キコトアルヘキモ決算其モノハ之カ爲ニ何等ノ影響ヲ受クルモノニ非サルナリ其他市町村會ニ對シテ決算報告ヲナス場合ニハ市會ニ在ラハ市參事會員タル者町村會ニ在ラハ課長及代理者共ニ當然故障アル者トシテ忌避スヘキモノナルコトヲ注意スヘシ

上來述フルカ如キ市町村ノ行政事務ニ關シ且市町村住民ノ權利義務ニ關スル

事項即チ市町村ト其住民トノ間ノ公法上ノ關係ヲ定ムル事項ニ付テハ市制町村制ニ於テ特ニ條例ヲ以テ規定スヘキコトヲ明定セル場合ノ外市制町村制ニ於テ猶ホ市制町村制ニ抵觸セサル範圍内ニ於テ市町村各自ニ條例ヲ設クルコトヲ得市町村ハ又其設置ニ係ル營造物ヲ使用セシムル方法ニ關シテ規則ヲ設クルコトヲ得條例及規則ハ所謂市町村自主權(オートノミー)ノ作用ニシテ恰モ法令ノ國ノ行政ノ準則タルカ如ク市町村行政ノ準則タルナリ如ク條例及規則ハ自治體タル市町村ノ意思ニ外ナラサルカ故ニ國家ノ意思タル法律命令ニ抵觸スルコトヲ得サルハ論ヲ埃タス條例及規則ハ地方慣行ノ公告式ヲ以テ之ヲ公布スルコトヲ要シ且條例ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要シ規則ハ市ニ在テハ府縣參事會ノ許可、町村ニ在テハ郡參事會ノ許可ヲ受クルヲ要ス如ク條例ト規則トニ依リ許可ノ手續ニ輕重アルハ一ハ直接ニ住民ノ權利義務ニ關スルコトヲ規定シ一ハ唯住民ノ自由意思ニ依ル營造物使用ノ條件ヲ定ムルモノニシテ二者ノ間ニ自ラ輕重ノ差アルニ由ルモノナリ市制一〇八一乃至一二二町

村制一〇八一乃至一一三地方學事通則、小學校令、中學校令、高等女學校令、實業學校令、圖書館令、明治二十四年勅令第二四四號公立中學校、高等女學校、專門學校、實業學校職員名稱待遇及任免、明治二十四年勅令第二一八號市町村立小學校長及教員名稱及待遇參照

第七節 町村組合及町村學校組合

市町村ハ本來各自獨立シテ其事務ヲ行フヘキモノナレトモ時トシテハ數市町村カ共同ノ利害關係ヲ有スル事務ニ付キ協同シテ之ヲ處理スルヲ便利トスルコトアリ現行ノ市制町村制ニ於テハ如斯キ場合ニ於テ市町村カ互ニ合同シテ組合ヲ設クルコトヲ得ルノ制度ヲ認メスト雖モ是レ法ノ不備トイフヘキモノニシテ早晚此制ヲ認ムルコトニ改正セラレヘキモノト信ス町村間ニ在リテハ必要ニ依リ組合ヲ設クルヲ得ヘキコトヲ規定セリ即チ數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ必要アル場合ニハ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得其他法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フヘキ實力ヲ有セサル町村

ニシテ他ノ町村ト合併スルノ協議整ハサルカ又ハ合併ヲナス能ハサル事情アル場合ニハ勢ヒ他町村ト共同シテ其事務ヲ行ハサルヘカラスルコトアリ如斯キ場合ニハ郡參事會ノ議決ヲ以テ強制的ニ町村組合ヲ設ケシムルコトヲ得協議ニ依リテ町村組合ヲ設クル場合ニハ組合會議ノ組織事務ノ管理方法及其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定セサルヘカラス強制的ニ町村組合ヲ設ケシムル場合ニハ關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定スルヲ要シ協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ムヘキモノトス右ノ場合ニ於ケル協議ハ關係町村ノ意見ノ合致ニ過キスシテ直接ニ外部人民ニ對スル公共團體ノ意思表示ニハ非サレトモ其協議ニ依リテ定マリタル事項ハ直チニ其效力ヲ外部人民ニ及ホスモノニシテ一種特別ノ性質ヲ有スルモノナリ學者之ヲ協定(フョールアイゼンバイング)ト稱ス一旦町村組合ノ設ケラレタル後ハ其協議ニ依リタルト強制ニ出テタルト問ハス監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得サルモノトス町村組合ニハ全部ノ町村事務ヲ共同處理スル所ノ全部町付組合アリ町村事務ノ一部ノミヲ協同處理スル所ノ一部町村組合

市制町村制 自治體タル市町村 町村組合及町村學校組合

アリ町村組合ハ一箇獨立ノ公法人ヲ成スモノナルヤ將タ數町村カ相協同セル
 狀態ヲ指スモノニ外ナラサルヤニ至テハ町村制ニ於テ何等規定セル所ナク或
 ハ之ヲ一ノ公法人ナリト論スル者ナキニ非スト雖モ吾人ハ如斯キ斷定ヲナスハ
 キ根據ヲ發見スル能ハス町村制ニハ唯數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メニ之
 ヲ設クルモノナルコトヲ規定スルノミニシテ之ニ獨立ノ人格ヲ與ヘ之ヲ權利
 主體トナサントスルノ趣旨ナルコトヲ推測スル能ハス故ニ之ヲ數町村ノ相協
 同セル狀態ナリト看做スヲ正當トス勿論數團體ノ事務ヲ共同處分スル目的ヲ
 以テ設クルモノニテモ法ノ規定ヲ以テ之ヲ獨立ノ公法人トナスコトヲ得ルハ
 明ニシテ郡制ノ認ムル郡組合ノ如キ其一例ナリト雖モ是レ法ニ特別ノ規定ア
 ルニ依ルモノニシテ法ニ何等ノ規定ナク又他ニ何等ノ根據ナクシテ直チニ公
 法人ノ存在ヲ斷定スルハ誤レリ如斯ク町村組合ハ獨立ノ人格者ニ非サルカ故
 ニ町村組合ノ有スル權利ハ關係町村ノ共有ニシテ町村組合ノ義務ハ關係町村
 ノ共同義務ニ外ナラサルナリ町村組合ニハ前ニ述フルカ如ク全部ノ組合アリ
 一部ノ組合アリ一部組合ノ場合ニハ組合事務即チ共同事務ノ外關係町村各自

ノ事務アルカ故ニ例ヘハ町村長町村會ノ如キ機關ニ至テモ組合町村長組合町
 村會ノ外向ハ關係町村各自ニ町村長町村會ヲ設クヘキコト勿論ナリト雖モ全
 部組合ノ場合ニハ組合ニ於テ關係町村事務ノ全部ヲ行フモノニシテ組合事務
 ノ外ニ各自町村ノ事務ナルモノ一モ無キカ故ニ之カ機關ニ至テモ組合町村長
 組合町村會ノ外更ニ各自町村ノ町村長町村會ハ之ヲ設クルコトヲ要セス或ハ
 全部組合ノ場合ニ於テモ或事項ニ關シ關係町村ノ一ヨリ他ノ者ニ對シテ訴訟
 等ヲ提起スルノ必要アルコトアルヘク又組合解除ノ發議ヲナサントスルコト
 モアルヘク此等ノ事項ニ關シテ各自町村ノ意思ヲ作り及之ヲ外部ニ表示スル
 機關トシテハ必ス町村長及町村會ノ存在ヲ必要トスルカ故ニ關係町村ハ各自
 常ニ此等ノ機關ヲ備ヘ置カサルヘカラサルモノナリト論スル者アレトモ組合
 内ノ各町村カ互ニ訴訟ノ相手方トナルカ如キコトハ法ノ豫想セサル所若シ如
 斯キコトアリトモハ組合ヲ結ヒタル效果ナキコトトナルヘシナリトイフヘク
 又組合解除ノ發議ノ如キハ組合町村會ニ於テ之ヲナシ得ヘキコトニシテ之カ
 爲ニ他ノ機關ヲ要セス町村制カ如斯キ二重ノ機關ヲ設ケシムルノ趣旨ヲ有セ

ナルコトハ多言ヲ待タスシテ明ナリ次ニ町村組合ニシテ果シテ關係町村ノ相協同セル状態ニ過キスシテ獨立ノ人格ヲ有スルモノニ非ス從テ所謂組合ノ財產ハ關係町村ノ共有財產ニ外ナラストセハ例ヘハ分割ノ請求ノ如キ民法ノ共有ニ關スル規定ハ之ニ對シテ適用セラルヘキモノナルヤトイフコトハ一問題ナルヘシ吾人ハ民法ノ規定ハ此場合ニ適用セラルヘキモノニ非サルヲ斷言セント欲ス何トナレハ町村組合ニ依テ生シタル共有ニ關シテハ特別法タル町村制ノ規定ニ依ルヘキモノナレハナリ尙ホ町村組合ヲ結ヒタル場合ニ於ケル議決機關及行政機關ノ組織ノ如キモ法ハ之ニ關シテ畫一ノ規定ヲ設ケス前已ニ述ヘタル如ク一ニ協議ヲ以テ之ヲ定メシムルコトトナセルカ故ニ組合會ニ付テハ組合ハ或ハ特別ノ議會ヲ設ケ或ハ各町村會ヲ合シテ會議ヲ開キ或ハ互選ノ委員ヲ以テ議會ヲ組織シ或ハ各町村會別箇ニ會議ヲナシ其各議會ノ一致ヲ以テ全組合ノ議決トナス等便宜ノ方法ニ從テ得ヘク町村組合長ニ付テモ或ハ特ニ一ノ組合長ヲ設ケ或ハ關係町村長ノ輪番ヲ以テ之ニ當ルコトアルヘク其他組合經費ノ賦課方法ノ如キモ或ハ直接ニ關係町村人民ニ賦課スルコトアル

ルヘク或ハ關係町村ニ配當シ各町村ニ於テ更ニ人民ヨリ之ヲ徵收スルコトアルヘク要スルニ此等ノコトハ其協議ノ如何ニ依リ固ヨリ多趣不同ナルヲ妨ケタルナリ

町村ハ又右ノ町村組合ノ外教育事務ニ關シテハ町村學校組合ナルモノヲ設ケルコトアリ而シテ之ヲ設ケルニハ監督官廳ノ命令ニ依ル場合ト町村各自ノ協議ニ依ル場合トアリ郡長ハ一町村ノ資力尋常小學校設置ニ關スル負擔ニ堪ヘスト認メタルトキ又ハ一町村ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムルコトヲ得此場合ニハ郡長ハ關係町村ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其一旦設ケタル組合ヲ解カシメントスル場合亦同シ町村ハ又數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ認可ヲ得テ高等小學校高等女學校中學校又ハ實業學校設置ノ爲メ町村學校組合ヲ設ケルコトヲ得此場合ニ於テ郡長カ組合ノ設置解除ヲ認可スルニハ府縣知事

ノ指揮ヲ受クルコトヲ要ス總テ町村學校組合ヲ設タルトキハ町村ノ協議ニ依ル場合ハ組合會議ノ組織事務ノ管理方法並ニ其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定スルヲ要シ其部長ノ命令ニ依ル場合ハ關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定スヘク協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ムルヲ要ス此等ノ點ハ町村組合ノ場合ニ於ケルト同一ナリ又町村學校組合ヲ解ク場合ニ於テ財產ノ處分ニ付キ關係町村ノ協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スヘキモノトス町村學校組合ノ法律上ノ性質即チ組合トシテ獨立ノ人格ヲ有スルモノナルヤ將タ町村組合ノ如ク單ニ數町村カ共同行政ヲナス狀態ニ過キサルヤハ少シク不明ナレトモ諸種ノ教育令ニ於テ市町村並ニ町村學校組合ニ對シ均シク學校設置ノ權能ヲ付與セル等ノ點ヨリ考フルモ法律ノ精神ハ町村學校組合ヲ以テ一ノ公法人トスルニ在ルモノノ如シ(町村制第一一六條乃至第一一八條地方學事通則小學校令中學校令高等女學校令實業學校令參照)

經過シ尙ホ繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス下規定シタリ例ヘハ講義錄等ノ發行ニ於テ一回二回三回ト順次ニ發行シ來リシカ爾後ノ部分ハ其後三年ヲ經過スルモ尙ホ發行セサルトキハ第三回ノ發行ヲ以テ其講義錄ノ最終ノ部分ト看做シ第三回發行ノ時ヨリ著作權ノ期間ヲ計算スルカ如シ而シテ三年後ニ更ニ第四回ノ發行ヲ爲シタルトキハ其部分ニ關シテハ新規ノ著作物ト看做シ更ニ其發行ノ時ヨリ其著作權ノ期間ヲ計算ス故ニ此場合ニハ著作權ノ期間二様ニ爲リ一ノ著作物ニシテ或部分ノ著作權ハ他ノ部分ヨリ早ク公有ニ歸スルノ結果ヲ生ス

(六) 寫真 寫真ノ著作權ノ期間ハ普通著作物ノ保護期間ヨリ短クシテ我著作權法ニ於テハ十年間トセリ(第二三條蓋シ寫真ハ單ニ光線ト含蓄ノ作用ニ依リテ製作スルモノナレハ他ノ著作物ノ如ク多クノ勢力ヲ要セス且永久ニ存在ヲ保ツモノニ非サレハ其著作權ノ期間ヲ長クスルノ必要ナシト云フニ在ルナラン歐米諸國ノ立法例ニ於テモ寫真著作權ノ期間ハ他ノ著作物ニ比シ短キヲ常トス又我舊寫真版權條例ニ於テモ其期間ヲ十年トセリ

著作權法 著作權ノ保護期間

又普通著作物ハ未刊ノ著作物ニ關シテハ永久ニ著作權ノ存續スルモノト爲
 スモ寫眞ニ付テハ發行セザル場合ニモ期間ノ經過ニ因リテ著作權消滅ス即
 チ寫眞ハ發行セザル場合ニ於テモ尙ホ種板ヲ製作シタルトキヨリ十年ニシ
 テ著作權ノ消滅スルモノトセリ(第二三條第二項) 又ハ其ノ
 此ノ如ク寫眞ノ著作權ノ保護期間ハ十年ナリト雖モ特種ノ寫眞ニ關シテハ
 其期間ヲ延長ス即チ著作權ノ存スル美術上ノ著作物ヲ適法ニ寫眞ニ撮寫シ
 タル場合ニハ其寫眞ノ著作權ハ美術上ノ著作物ノ著作權ト同一ノ年限間繼
 續ス(第二三條第三項例)ハ其寫眞師カ某畫工ノ許諾ヲ得テ其畫ヲ寫眞ニ寫
 シ取リタル場合ニハ其寫眞ノ著作權ハ十年ニシテ消滅セスシテ其畫ノ著作
 權ノ存スル期間繼續スルナリ蓋シ其理由トスル所ハ寫眞其モノヲ保護スル
 爲メニ非スシテ寫眞ノ基礎ト爲リタル原著作物ヲ保護スルニ在リ何トナレ
 ハ若シ寫眞著作權ニシテ十年ニシテ消滅スルトキハ其以後ニ於テハ何人モ
 自由ニ之ヲ複製スルコトヲ得隨テ寫眞ヨリ間接ニ原著作物ヲ複製シ以テ原
 著作者ノ利益ヲ害スルコトト爲レハナリ故ニ原著作物ヲ保護セントスルニ

ハ寫眞著作權ノ期間ヲ原著作物ノ保護期間ト同一ニシ其期間内ハ何人モ之
 ヲ複製スルコトヲ得サラシメタルヘカラス是レ斯ル特別ノ規定ノ存スル所
 以ナリ然レトモ原著作物ノ著作者ト寫眞師トノ間ニ別段ノ契約アルトキハ
 其契約ニ從フヘキハ勿論ナリ例ヘハ前述ノ例ニ於テ畫工カ寫眞師ニ特ニ二
 十年間著作權ヲ與フルノ契約ヲ取結ヒタルトキハ寫眞師ハ其契約ニ從ヒ單
 ニ二十年間著作權ヲ有スルカ如シ 又ハ其ノ
 又普通ノ著作物ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其著作物ノ爲メニ著作シ又ハ
 著作セシメタルモノナルトキハ其寫眞ノ著作權ハ十年ニシテ消滅セスシテ
 普通著作物ノ著作權ノ期間ト同一ノ期間繼續ス(第二四條)是レ亦前述ノ場合
 ト同シテ普通著作物ノ著作者ヲ保護スルノ趣旨ニ出テタルナリ 又ハ其ノ
 以上ヲ以テ各種著作物ノ保護期間ヲ說明シタリ尙ホ茲ニ說明ヲ要スヘキコト
 ハ翻譯權ニ關スル期間ナリ我著作權法第一條第二項ニ依レハ「文藝學術ノ著作
 物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ與行權ヲ包含ス」ト
 アリ故ニ翻譯權並ニ與行權ハ著作權ノ一部ナリ隨テ其保護期間モ著作權ノ存

續スル期間繼續スルヲ原則トス然ルニ翻譯權ニ關シテハ特別ノ規定ヲ設ケ著作權者原著物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ストセリ(第七條第一項)故ニ普通著作權ハ著作者ノ終身及ヒ死後三十年(若クハ發行ノトキヨリ三十年繼續スルニ拘ハラス翻譯權ハ發行後十年ニシテ消滅スルナリ蓋シ翻譯權ハ著作權ノ一部ナリト雖モ其期間ヲ長カラシムルトキハ學問ノ普及發達ニ害アルヲ以テ特ニ其期間ヲ短縮シ翻譯ノ自由ヲ認メタルナラン

然レトモ翻譯權ノ消滅スルハ著作權者カ原著物發行ノトキヨリ十年内ニ其翻譯物ヲ發行セサルトキニ限ル故ニ若シ著作權者カ其著作物ヲ翻譯シテ之ヲ發行シタルトキハ翻譯權ハ十年ニシテ消滅セスシテ普通著作權ト同一ニ著作者ノ終身及ヒ死後三十年繼續スルコトト爲ル蓋シ著作權者カ十年内ニ其著作物ヲ翻譯シテ之ヲ發行スルトキハ翻譯權留保ノ意思ヲ表示シタルモノト看做サルヘキヲ以テ翻譯權ノ期間ハ延長シテ普通著作權ノ期間ト同一ニ爲ルナリ此ノ如ク著作權者カ原著物發行ノトキヨリ十年内ニ其著作物ノ翻譯ヲ發行

セサルトキハ其翻譯權ハ消滅スルヲ以テ此期間ヲ經過スルトキハ何人モ自由ニ其著作物ヲ翻譯シ之ヲ發行スルコトヲ得所謂翻譯權カ公有ニ歸スルナリ然レトモ元來翻譯ナルモノハ他ノ國語ヲ以テ同一ノ思想ヲ言顯ハスモノナレハ原著物以外ノ國語ヲ以テ原著物ヲ複製スルハ總テ翻譯ナリ例ハ日本語ノ著作物ヲ佛語ニ改ムルモ英語ニ書直スモ將タ又獨逸語伊太利語ニテ言顯ハスモ總テ翻譯ナリ故ニ翻譯權ト云ハハ廣ク總テ各國語ニ翻譯スルコトノ權利ヲ意味スルヤ明カナリ此意義ニ從ヒ我著作權法第七條第一項ヲ解スルトキハ著作權者カ原著物發行ノトキヨリ十年内ニ何等ノ翻譯ヲ爲ササルトキハ總テノ國語ノ翻譯權消滅スルコトト爲ル之ヲ裏面ヨリ解スルトキハ著作權者カ十年内ニ一ノ國語ノ翻譯物ヲ發行スルトキハ總テノ國語ノ翻譯權消滅セサルノ結果ヲ生ス例ハ著作權者カ十年内ニ英語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ英語ノ翻譯權ハ勿論佛獨伊其他ノ國語ノ翻譯權モ皆消滅セサルカ如シ即チ著作權者ハ單一ノ國語ノ語ニ翻譯ヲ爲ストキハ總テノ國語ノ翻譯權ヲ保有スルコトト爲ルナリ是レ著作權者ヲ保護スルニハ完全ナリト雖モ社會一般ノ利益ヨ

リ觀レハ妥當ナラス故ニ我著作權法第七條第二項ニ於テハ其保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ單ニ其國語ノ翻譯權ノミ消滅セサルコトヲ規定セリ例ヘハ著作權者カ英語ノ翻譯物ヲ十年内ニ發行シタルトキハ英語ノ翻譯權ハ普通著作權ト同一ノ期間繼續スルモ其他ノ國語即チ佛、獨、伊語等ノ翻譯權ハ十年ニシテ總テ消滅スルモノトス

翻譯權ハ著作權ノ中ニ包含ストノ主義ハ各國著作權法ノ認ムル所ナリト雖モ其保護期間ハ普通著作權ノ期間ヨリ短キヲ常トス即チ我著作權法ヲ始トシ獨逸、埃、太、利、匈、牙、利、和、蘭、南、米、伊、太、利、瑞、西、丁、抹、那、威、瑞、典、ノ如キ此主義ヲ採ル(獨逸著作權法第一五條、埃、太、利、匈、牙、利、和、蘭、南、米、伊、太、利、瑞、西、丁、抹、那、威、瑞、典、ノ如キ此主義ヲ採ル)

法第五條第六條第一五條、南、米、共、和、國、著、作、權、法、第、五、條、第、六、條、第、一、六、條、伊、太、利、千、八、百、八、十、二、年、勅、令、第、一、二、條、第、一、項、瑞、西、著、作、權、法、第、二、條、第、三、項、丁、抹、千、八、百、七、十、九、年、五、月、二、十、四、日、法、律、第、一、條、那、威、千、八、百、七、十、六、年、六、月、二、日、法、律、第、十、五、條、第、一、項、瑞、典、著、作、權、法、第、三、條、之、ニ、反、シ、翻、譯、權、ヲ、全、然、普、通、著、作、權、ト、同、一、視、シ、其、保、護、期、間、ニ、モ、差、違、ヲ、認、メ、サ、ル、立、法、例、ハ、白、耳、義、ハ、イ、チ、モ、ナ、コ、西、班、牙、ボ、リ、ビ、ア、コ、ロ、ム

ピア、葡、萄、牙、ナ、リ、白、耳、義、著、作、權、法、第、一、二、條、ハ、イ、チ、著、作、權、法、第、五、條、モ、ナ、コ、著、作、權、法、第、四、條、西、班、牙、著、作、權、法、第、一、二、條、第、一、三、條、ボ、リ、ビ、ア、著、作、權、法、第、八、條、コ、ロ、ム、ビ、ア、著、作、權、法、第、三、九、條、葡、萄、牙、民、法、第、五、七、七、條、但、此、等、ノ、國、ニ、於、テ、モ、外、國、著、作、物、ニ、關、シ、テ、ハ、特、例、ヲ、設、ケ、外、國、著、作、物、ノ、翻、譯、權、ノ、期、間、ハ、一、般、著、作、權、ノ、期、間、ヨ、リ、短、シ、ト、ス、葡、萄、牙、ニ、於、テ、ハ、著、作、者、カ、外、國、人、ナ、ル、ト、キ、ハ、翻、譯、權、ハ、原、著、作、物、發、行、ノ、時、ヨ、リ、十、年、ニ、シ、テ、消、滅、ス、(葡、萄、牙、民、法、第、五、七、七、條、コ、ロ、ム、ビ、ア、ニ、於、テ、ハ、外、國、人、ノ、著、作、物、ニ、關、シ、テ、ハ、翻、譯、權、ヲ、認、メ、ス、只、原、著、者、ノ、氏、名、ヲ、顯、ハ、ス、ヲ、要、ス、ト、セ、リ、(コ、ロ、ム、ビ、ア、著、作、權、法、第、三、九、條、西、班、牙、著、作、權、法、ニ、於、テ、モ、外、國、著、作、物、ノ、翻、譯、ニ、關、シ、テ、ハ、特、種、ノ、規、定、ア、リ、同、國、著、作、權、法、第、一、二、條、乃、至、第、一、五、條、參、照、)

佛、國、ニ、於、テ、ハ、翻、譯、權、ニ、關、シ、テ、法、律、ニ、何、等、ノ、規、定、ナ、シ、然、レ、ト、モ、學、說、ハ、翻、譯、權、ヲ、以、テ、一、般、ノ、著、作、權、ト、同、一、視、シ、其、保、護、期、間、モ、同、一、ナ、リ、ト、コ、ト、ニ、一、致、セ、リ、(プ、リ、エ、一、著、作、權、法、論、第、五、三、二、頁、)

以上述ヘタル如ク翻譯權ノ保護期間ハ二三ノ立法例ヲ除クノ外ハ普通著作權ノ期間ヨリ短キヲ常トス抑モ翻譯ハ複製ノ一方法ニシテ翻譯權ハ著作權ノ一

部ナリトノ原則ヨリ言ヘハ翻譯權ノ期間モ亦著作権ノ期間ト同一ト爲スヲ理論上正當ナリトス然レトモ翻譯ハ他國ノ文物制度ヲ自國ニ輸入スルニハ最も必要ナル手段ナリ故ニ學問普及ノ上ヨリ言フモ又文化輸入ノ上ヨリ言フモ外國著作物ニ關シテハ翻譯ノ自由ヲ認ムルコト必要ナリ殊ニ我國現時文化ノ狀態ニ於テ最モ其然ルヲ見ル故ニ我著作権法ニ於テハ同盟條約ノ許ス範圍内ニ於テ翻譯權ノ期間ヲ短クシ以テ翻譯ヨリ生スル利益ヲ獲得セントセリ千八百九十六年著作権保護同盟條約追加規程第一條第三參照ニ據ルニハ
 上述シタル如ク著作権ノ保護ハ一定期間ノ經過ニ因リテ消滅ス然レトモ是レ唯發行又ハ興行シタル著作物ニ付テ然ルモノニシテ未發行未興行ノ著作物ノ著作権ハ永久ニ存續スルナリ故ニ未發行ノ著作物ハ往往著作権ノ何人ニ屬スルヤ不明ナルコトアリ殊ニ古文書類ニ於テ然リトス而シテ此等未發行ノ著作物中ニハ有益ナルモノアリテ之ヲ發行シテ世間ニ發表スルコトノ必要ナルモノアリ而シテ其著作若クハ其承繼人ノ明瞭ナル場合ニハ一其人ニ就キ許諾ヲ求ムルコトヲ得ルモ其不明ナル場合ニハ此途ナキヲ以テ有益ナル著作物

ト雖モ之ヲ公ニスルコトヲ得スシテ空シク篋底ニ埋沒セシメサルヘカラサルコトアリ此ノ如キハ學問ノ發達上ニ影響スルコト少カラサルヲ以テ斯ル著作物ヲ發行スルコトヲ得ルノ途ヲ開カサルヘカラス我著作権法ハ此必要ニ應ゼンカ爲メニ左ノ規定ヲ設ケタリ

第二十七條 著作権者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セザルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

而シテ内務省令第二十七號ニ依レハ斯ル著作物ヲ發行又ハ興行セントスル者ハ著作物ノ題號及ヒ著作者ノ氏名稱號等ヲ官報及ヒ東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ著作者ノ氏名住所明カナル場合ニハ其居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ其期日ノ最終日ヨリ六箇月以内ニ著作権者ノ出テタルトキハ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得此ノ如ク著作権者ヲ搜索スルノ總テノ手段ヲ盡シ而シテ尙ホ知レサルニ於テハ其著作物ハ公有ニ歸シタルモノト看做シ之ヲ發行セシムルモ決シテ著作権者ヲ害スルト云フコトヲ得ス是レ社會ノ公益ト著作権者ノ私益トヲ調和シ斯ル規定ヲ設ケタル所以ナランカ

此規定ハ發行又ハ興行セザル著作物ニモ適用セラレルモノナリ故ニ既ニ發行又ハ興行シタル著作物ニ關シテハ經合其著作者ノ不明ナル場合ト雖モ此規定ヲ適用スルコトヲ得ス蓋シ既ニ發行又ハ興行シタル著作物ハ其著作權ニ期間アリテ其期間ヲ經過スルトキハ著作權消滅スルカ故ニ斯ル規定ノ必要ナキヲ以テナリ只未刊ノ著作物ニ在リテハ其著作權ハ永久ニ繼續スルヲ以テ著作權消滅ノ期ナク隨テ斯ル規定ナケレハ永久ニ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得ナルナリ是レ未刊ノ著作物ニ關シテ特別ノ規定ヲ設タル必要アル所以ナリ著作權ハ一定ノ期間存續シ一般財産ト等シク賣買相續セ得ルコトハ前述セシカ如シ然ルニ民法第五十九條ニ依レハ權利者ノ死後一定ノ期間内ニ相續人タル權利ヲ主張スル者ナキトキハ相續財産ハ國庫ニ歸屬ストアリ故ニ其財産ノ動産タルト不動産タルト將タ其他ノ財産タルト問ハス凡テ相續人ナキ場合ニハ其財産ハ國庫ニ歸シ國有ト爲ルナリ而シテ著作權モ其一面ハ財産權タルヲ以テ特別規定ナキトキハ相續人ナキ著作權ハ民法ノ規定ニ依リ國庫ニ歸シ著作者ノ死後三十年間世間一般ノ人ハ國ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ之ヲ復

テ其收入ヲ明確ニシ殊ニ原本等ノ紛失アリタル場合ニ其作成ノ日附種類等ヲ明カニスルヲ目的トスルナリ從テ外國法ニ於テ公證人ニ課スルニ毎年定期ニ其提出ヲ命シ管轄裁判所ニ調査スルコトト定ムルモノアリ我法ニ於テ此ノ如キ規定ヲ缺カカ故ニ公證人ヨリ進シテ之ヲ裁判所ノ檢査ニ供スルノ義務ナカル可シト雖モ然カモ公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長地方裁判所長ノ累次監督ヲ受クルモノニシテ原本其他ノ書類ハ裁判所ノ命令アレハ役場外ニ持出スルコトヲ得可シト規定シタルカ故ニ管轄裁判所ノ職權ニ因リ必要ナリト思料スルトキハ何時ニテ提出出帳ヲ提出ヲ命シテ其職務ノ執行ヲ檢査シ得可シキコトハ之ニ救ヒ附屬ニマシマシハ原文ニ關シテ附屬書類トシテ要スル見出帳ヲ作成セシムル目的既ニ此ノ如シ從テ書類ノ全文ヲ記載スルコトヲ要セズ其記入事項モ自己此趣旨ヲ從テ規定シテ之ヲ印テ屬託人ノ住所氏名ヲ明カニシ作成シタル書類ハ之ニ屬屬ヲ逐テ之ヲ番號ヲ付シ可キヲ以テ其番號ヲ記入シ又其證書ノ内容ハ千種萬狀ニテ之ヲ放シ其種類ヲ簡記シタル止該書類ヲ取極限ノ數年毎月日附記ニ書讀モヲ要スルニ夫ハ本館ニ其歸入年附テ該書類ヲ

(第二) 立會人

公證人カ證書ノ原本ヲ作成スルトキハ必ス立會人ノ介在ヲ要ス茲ニ一言注意
 ス可キハ民法中遺言ニ關スル規定ニ於テハ本項立會人ト同キ任務ヲ有スル
 者ヲ證人ト稱シ(民第六十九條第七十條第七十二條參照)證人ヨリ一步進
 ミテ禁治産者カ當時其精神狀態ニ於テ異狀ナカリシ旨ヲ附記スルノ任務ヲ有
 スル醫師ノ如キ者ヲ立會人ト稱シ(民第七十三條第七十四條)二者其内容ヲ
 異ニスト雖モ茲ニ立會人トシテ論スルハ始ラテ公證人規則ノ用例ニ從ヒ民法
 所定ノ前記證人ヲモ包含セシメ以テ一ハ後出ノ證人ト區別セントスルカ
 立會人ハ證書ノ作成ニ介在セザル可カラズ其行爲トシテハ普通ノ場合ニ於テ
 ハ一名ニシテ關係人トシテ完成シタル證書ニ署名捺印ス可ク公正證書又ハ嚴
 密證書ニ依ル遺言ノ場合ニ於テハ二名以上ヲ要シ證人トシテ之ニ署名捺印ス
 ルコトヲ要ス凡ソ此ノ如ク立會人ノ介在ヲ必要條件トシタルハ全ク證書カ嚴
 正ニ作成セラルルヲ擔保スル爲メナルカ故ニ從テ立會人モ作成若シクハ筆記
 ノ正確ヲ監視スル責務ヲ有シ之ニ署名捺印シタルトキハ其證書ノ嚴正ニ作成

シタル旨保障シタルモノト看做サルナリ民法第六十九條第四號ニ證人ハ
 筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後之ニ署名捺印スルコトヲ以テ遺言ノ一方
 式トシタルハ能ク立會人ノ責務ヲ言顯ハシタルモノト言フ可シ
 立會人ハ證書作成ノ嚴正ヲ保持スル爲メナルカ故ニ訴訟法上ノ證人ノ如ク此
 目的ニ付テノ能力ヲ欠缺スル者若シクハ作成者又ハ囑託者ノ利益ヲ圖ル虞
 アル者ハ立會人タルコト能ハスト定メタリ一般ノ場合ニ於テ此能力ヲ缺ク者左
 ノ如シ

- (イ) 未成年者
- (ロ) 禁治産者及準禁治産者
- (ハ) 剝奪公權者及停止公權者
- (ニ) 盜罪詐僞罪賄賂收受罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者
- (ホ) 身代限家資分取又ハ破産宣告確定シ尙ホ負債ノ辨償ヲ終ヘザル者
- (ヘ) 官吏懲戒令ニ依リ免官セラレタル者
- (ト) 公證人ノ親族雇人又ハ筆生

(チ) 囑託者ノ親族又ハ雇人

但シ公證人規則ニ於テハ(イ)ニ列記シタル者ヲ省キタル民法ノ規定民第七十四條ニ於テハ之ニ證人又ハ立會人タル資格ヲ禁セリ思フニ遺言ノ立會人ト一般公正證書作成ノ立會人トハ其性質全く同一ト論斷スルヲ得テレトモ精神ノ不成熟ヨリ未成年者ニ之ヲ禁シナカラ精神ノ喪失若シクハ其中正ヲ得タル者ニ獨リ之ヲ許スハ頗ル不當且危險ナリト言ハサル可カラサレハナリ

公正證書ニ依ル遺言ニ於テハ其立會人證人又ハ立會人タル能力ヲ缺ク者ハ前掲(イ)(ロ)(ニ)(ホ)(ヘ)ノ外尙ホ

(ト) 遺言者ノ配偶者
 (チ) 推定相続人受遺者及其配偶者並ニ直系血族
 (リ) 公證人ト家ヲ同シクスル者及公證人ノ直系血族並ニ筆生雇人
 (ニ) シテ何レモ稍モスレハ私利ニ走セテ公正ヲ破リ易キカ爲メナリ此公證人ト家ヲ同シクスル者トハ同居人ノ謂ニ非ラスシテ戶籍ヲ同シクスル者ヲ云フモノトス

要スルニ立會人タル者ハ其身體狀態及精神狀態ニ於テ中正ヲ得タル者ナル可キ從テ前ニ列記シタル者以外ニ於テ事實上立會人ノ義務ヲ遂行スル能ハサル者アル可ク例之聽能視能ノヤ以上ヲ缺キ面カモ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタル者ノ如キハ身體上ノ故障ヨリシテ到底立會人タルコトヲ得ス又例之白痴泥醉者ノ如キハ精神上ノ異常ヨリ立會人タルノ責任ヲ盡スコト能ハサルナリ法律ハ此ノ如キヲ以テニ事實ヲ認定ニ放任シタリ

整ニ一言ス可キハ前ニ述ヘタル如ク公證人規則ニ於テ一般ノ公正證書又作成スルニ付キハ人ト立會人ヲ要ストシ更ニ公正證書ニ依ル遺言ノ作成ニ付テハ民法ニ於テ二名以上ノ證人ノ立會ヲ要求シタリ然レハ此ノ如キ遺言ノ作成ニハ此兩様ノ證人ノ立會ヲ要スルカ如シド雖モ余輩ハ本間ニ對シテ民法ニ規定セラレタル二名以上ノ證人アルヲ以テ十分トナスモノナリ其詳細ニ付テハ第四節ニ於テ説明セン

第二ニ證人

ニモ之ヲ執行セザル可カラズ然ルニ願則ハ公證人カ證書ヲ作成スルニハ
 囑託人ノ氏名ヲ知り而識アルコトヲ必要トシ又他方ニ於テハ親族ノ如キモノ
 ノ爲メニハ其作成ヲ禁セラルルカ故ニ囑託者カ受持區ノ内外何レニ居住スル
 間ハス兩者ノ關係密ニ失セズ又疎ニ流レサルモノナルコトヲ要シ事實上其
 作成ノ機會ハ頗ル稀有ナリト言ハサル可カラズ此ノ如キハ證書作成ノ嚴正ヲ
 維持スルニ付テハ頗ル適當ノ注意ト言フ可キモ實際ニ於テ何レノ公證人ニモ
 面識ヲ有セサル者稀ナリトセサルヲ以テ到底事宜ヲ得タルモノト言フヲ得ス
 於是法律ハ公證人カ囑託人ノ氏名ヲ知ラス又面識ナキトキニ於テ之ニ均シキ
 公正ノ保障ヲ設ケテ其欠缺ヲ補ヒタリ即チ甲ト稱スル囑託者カ果シテ甲ナリ
 トノ證明方法ハ或ハ書證ニ依ルカ或ハ人證ニ依ルカ二者其一ヲ執ラシメタリ
 書證ハ私署證書ヲ以テ満足セズ必ズ其本籍或ハ寄留地ノ郡村區長ノ證明書即
 チ公正證書ヲ以テス可キモノトシタリ人證ハ茲ニ述フル證人はナリ
 公證人ハ證書原本ニ其本旨ヲ記載ス可キハ論ヲ俟タズ其他左ノ諸件ヲ記載セ
 ザル可カラズ而シテ是等ハ當事者ノ同意アルモ公益の規定ナルカ故ニ之ヲ省

略スルヲ得ナルモノトス

- 一 囑託人立會人ノ族籍住所職業氏名年齢
 - 二 囑託人カ代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住
 所職業氏名年齢
 - 三 囑託人カ親權者若シクハ後見人ナルトキハ親權者若シクハ後見人タル
 證書ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢
- 此ノ如キハ必要の條件ナルヲ以テ公證人カ假令乙ハ甲ノ親權者又ハ後見人タ
 リトノ事實ヲ而識其他ノ關係ヨリ知悉スルモ尙ホ其事項ノ證明書ヲ提出セシ
 メ之ヲ所持シタルコトヲ記載セサル可カラズ又囑託人カ未成年者タルトキハ
 其法定代理人カ其本旨タル契約ニ同意シタル書面ヲ要ス可ク從テ其事實ヲ記
 載スルヲ適當ナル注意トスルナリ但シ此場合ニアリテハ囑託本人カ未成年者
 ナル故ニ法定代理人ノ族籍氏名年齢等ノ記入ヲ要セサル以テ勿論之ヲシテ書
 署名捺印セシムルヲ要セザルナリ
- 斯ク囑託人ノ身分ニ付キ詳密ナル記入ヲ爲スハ公正ノ維持ニ外ナラサルヲ以

テ事實ト符合スル事項ヲ記シ可キヤ明カナリ然レトモ公證人カ面識アリテ其氏名等ヲ認知シタルトキハ其謀ノ關係ナキ以上ハ虚偽ノ記入アリ得可カラスト雖モ囑託人カ全ク路傍ノ人タルニ於テハ其陳述ノミヲ以テ直ニ眞實トスルハ頗ル寛ニ過キタリ依テ前述ノ證明方法ヲ執ラシメタリ即チ本人ハ其陳述ヲ其四郡村區長ノ證明書ヲ以テ證明シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキニハ其族籍住所職業氏名年齢證明書ハ或ハ證明願ヲ提出シ之ニ奥書シテ之ヲ爲スコトアル可ク或ハ別ニ證明書ヲ下付スルコトアル可シト雖モ要ハ其事實ヲ知り得ル程度ヲ以テ十分トス然レトモ卒業證書又ハ旅行券ノ如キモノヲ以テ之ニ代フルヲ得ス證人ニ付テハ左記ノ要件ヲ具備セサル可カラズ

(4) 公證人カ氏名ヲ知り面識アル者ナル可シ 囑託人ノ氏名ヲ知ラス且ツ公力ノ干與シタル證明方法ニモ非サルヲ以テ少クとも甲ハ甲ナリト立證スル者カ公證人ト面識アリ且ツ其氏名ヲ知ラルル者ナラサル可カラズ

(ロ) 成年者ニシテ前記立會ノ能力ヲ缺ク者ナラサルヲ要ス 此種ノ證人ハ

同ヨリ訴訟法上ノ證人ト異リ公法上ノ義務トシテ強要スルモノニ非サレトモ然カモ精神ノ中正ヲ得且ツ十分ナル信用ヲ有スル者ナラサル可カラズ

(ハ) 二人以上タル可シ

公證人カ此ノ如キ立證方法ノ何レヲモ執ラスシテ輕忽ニ證書ヲ作成シタルトキハ假令他ノ條件ヲ充タストキト雖モ其證書ハ全部公正效ヲ發セサルモノトス之ニ反シ法定ノ證明方法ニ依リタルトキハ假令其記入事項カ眞實ニ反スルトキト雖モ公證人ハ證書ノ完成ニ依リ之ニ關スル責任ヲ免カル何トナレハ完成前ニアツテハ若シ眞實ナラサルノ確證ヲ得タルトキハ職權ニ因リテ之ヲ修正シ若シクハ全然其作成ヲ拒絕シ得レトモ既ニ完成シタル後ニアリテハ最早之ヲ保存スル義務ヲ生スルノミニシテ證書ノ加除ヲ爲シ得可カラサルハナリ立會人ト證人トハ同一人ニ於テ之ヲ兼任シ得可シ何トナレハ其目的タルヤ立會人ハ證書作成ノ嚴正ニ行ハレタルヲ證スルニアリ證人ハ出頭シタル囑託人カ其陳述シタルモノト符合スルコトヲ立證スルモノニシテ兩立セサルモノニ非サレハナリ

五、證書作成ノ場所及其年月日
 此要件ニ付テハ後ニ説明ヲ讓ル
 (第三)記載手續
 證書ノ内容ハ法令ニ因リ其範圍ニ定メ不法ナル事項ハ公証人ト雖モ之ヲ記載スルコトヲ得ス又假令之ヲ記載スルモ何等ノ效力ヲ生セザルナリ而シテ其内容カ適法ナルモ法律ハ其記載ノ形式ヲ嚴定スルカ故ニ若シ公証人ニシテ此形式ヲ履行セザランカ其如何ニ因リ或ハ其カ爲メニ其證書ハ全然公正効ヲ生セザルコトアリ或ハ單ニ懲戒罰ヲ課セラルルコトアリ或ハ其違背ノ部分ノミ効力ヲ發セザルコトアルナリ故ニ公正證書カ公正効ヲ有スルニハ其内容タル本旨カ適法ナルノミナラス之ヲ書面ニ表彰スル手續カ亦法律ノ定メタル所ニ依ラザル可カラス本項ニ於テ述ヘントスル所ハ此記載ノ形式ナリ
 固トヨリ證書ノ作成ニ付キ全責任ヲ負フ者ハ公証人ナルカ故ニ其作成ニ關シ專權ヲ有スル者亦公証人ナリト言ハサル可カラズ從テ依頼アレハ之ヲ立案シテ證書ニ起草スル等ハ總テ其自由ニ一任シタルモノト言フ可シ然レトモ法律

ハ之ニ公正効ヲ付與スルノ點ヨリ文書ノ明瞭嚴正ナルコトヲ要求シ且ツ依頼者ニ無用ノ出費ナカラシムル爲メ證書ノ記載手續ニ頗ル嚴重ナル制限ヲ加ヘタリ故ニ公証人ハ職權上隨意ニ證書ヲ作成シ得レトモ一面ニ於テハ法定ノ形式ヲ履行ス可キ職務ヲ有シ法律ノ規定以外ニ於テ始メテ其自由意思ニ依リ得可キモノタリ
 (4)文字
 公正證書カ日本語ヲ以テ編成セラル可キモノタルヤ論ヲ埃タス假令外國語ヲ表顯ス可キ必要アル場合ト雖モ文字ハ日本語ヲ以テ表示セザル可カラズ然カモ其日本語タルヤ普通平易ノ語ヲ用フ可キモノトセリ之レ徒ラニ崎嶇タル文字ヲ用フルハ其意義ノ解釋等ニ付キ異議ヲ惹起シ遂ニハ鑑定等ノ手數ヲ生スヘキヲ以テナリ今日ニ於テハ假名交リ文ヲ以テ普通語トナス可キナリ而シテ之ヲ記載スルニハ字畫明瞭ナルコトヲ要求セリ文字讀ミ難クシハ紛争ヲ讓シ易ク曖昧不明ハ法律ノ最モ厭フ所ナレハナリ從テ楷書ヲ以テ記載スルヲ可トシ略字若シタハ符號ヲ用フ可カラズ殊ニ數量ノ年月日ヲ記載スルヲテハ一二三十千ノ如キハ僅カニ一畫ヲ加フルノミニテ其意義ニ大ナル差異

ヲ生シ得可ク且ツ之ニ重大ナル價值ヲ有セシムル場合動ナカラサルヲ以テ後日ノ偽造ヲ避クル爲メ特ニ數字ニ壹貳參肆伍陸柒捌玖拾陌阡萬ノ文字ヲ使用ス可キモノトシタリ

度量衡貨幣ノ數量名稱及曆法ハ日本現行ノモノニ從ヒ各法律ノ規定ニ遵據シテ記載セサル可カラス然レトモ實體法ニ於テ外國ノ通貨ノ給付ヲ以テモ債權ノ目的ト爲スコトヲ許容民第四百二條シタルカ故ニ外國ノ度量衡又ハ貨幣ノ數量及名稱ヲ記載ス可キ場合ナシト言フ可カラス又既ニ廢シタル我度量衡貨幣曆法又ハ外國曆法等ノ記載ハ全然禁止ス可キモノニ非サレハ已ムヲ得サル場合ニアリテハ此ノ如キモノヲ記載スルコトヲ得セシメタリ

(ロ)證書ニ記載ス可キ要項 證書ノ要項トシテハ本旨ノ外囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齢ト共ニ作成ノ場所及年月日ヲ記載ス可キコトハ既ニ述ヘタル所ナリ而シテ前者ハ證人ノ項下ニ述ヘタルヲ以テ茲ニハ場所及年月日ニ付キ少シク説明ス可シ

場所ノ表示ハ證書カ果シテ嚴正ニ作成セラレタルカヲ明カニスルニアリ詳言

スレハ公正證書ハ通常事件ニアリテハ當然公證人ノ役場ニ於テ作成セラルルヲ要シ已ムヲ得サル事件例ヘハ拒絕證書ノ作成等ニアリテハ拒絕者ノ營業所又ハ住所等ニ於テ作成セラルルヲ要ストシ法律ハ證書ノ嚴正ヲ維持スル爲メ其作成ノ場所ヲ限定シタルヲ以テ此ノ如ク作成ノ場所カ適法ナルコトヲ表示スルハ甚タ必要ニシテ從テ作成ノ場所ハ抽象的ニ單ニ某ノ住所ト言フ如ク表示セスシテ其實上ノ番地ヲ以テ表示セサル可カラス

年月日ノ表示ハ私署證書ニアリテモ成立ノ要件ヲ爲スモノニシテ主トシテ當事者ノ能力ニ關ス即チ囑託人ハ當時ニ於テ成年者タリシヤ否ヤ又後見人或ハ親權者トシテ署名捺印シタルトキハ當時ニ於テ其職ニアリシヤ否ヤヲ確實ニスル目的ニ出テ而シテ以上ノ表示ニシテ錯誤アリタルトキハ直チニ之ヲ訂正シ得可シト雖モ既ニ證書ニシテ完成シタル後ニアリテハ公證人ハ作成ノ職務ヲ完了シ保存ノ義務發生スルヲ以テ加除訂正スルコトヲ得ズ證書ノ完成期ハ公證人カ其作成ニ係ル證書ヲ關係人ニ讀聞カセ其旨ヲ記入ヲ爲シタル後各自署名捺印ヲ終リタルトキニアリト信ス

若シ場所ノ表示又ハ年月日ヲ記入ヲ遺脱シタルトキハ其故意又ハ過失ノ何レニ出テタルヲ問ハズ此ノ如キモ公証人ノ職責ニ非ズ維持スル所以ニ非ラス依テ其一以上ヲ缺キタル證書ハ全部公正ノ效ヲ有セザルヲ爲シタリ

(ハ)文字ノ追加削除改正ニ公証人ハ其作成ニ係ル證書ノ文字ヲ加除改正スルコトヲ得可シ但シ證書完成以前ニ在ル可キハ前通シタル所ノ如シ追加トハ偶然又ハ故意ニ生ジタル證書中ノ餘白若シクハ別行ニ若干ノ文字ヲ挿入スルコトヲ云フ從テ證書以外ノ紙片ニ文字ヲ記載シテ之ヲ附加シ又ハ證書ノ字面上ニ糊著セシムルカ如キハ證書中ノ餘白又ハ別行ト言フ可カラズ全ク別紙ニ記入スルヲ以テ所謂追加ニ非ス又證書ノ作成手續トシテ許ス可キニ非ラス又既ニ記入セラレタル文字ハ字畫ヲ不自然ニ加筆スルカ如キモ亦許ス可キニラス總テ此ノ如キヲ許サハ偽造變造タリヤ否キヲ判別スルニ困難ニシテ證書ノ公正ノ性質ニ適合セザルモノナレハナリ削除トハ既ニ記入セラレタル文字ヲ消シテ無効ニ歸セシムルヲ言ヒ其削除ハ原字ノ明カニ讀ミ得可ク且ツ其字

數ノ計算シ得可キ方法ニ依ルコトヲ要ス改正トハ若干字ヲ削リ若干字ヲ加フルコトヲ言フ其數ハ證人ニ由ルニ依リテ決定スルコトヲ要ス

追加改正ニアリテハ其文字及第何行ニ追加改正ヲ爲シタルカヲ證書ノ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ之ニ公証人並ニ關係人捺印スルコトヲ要シ削字アリタルトキハ原字體ヲ存シ且ツ何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ證書ノ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公証人並ニ關係人捺印スル可シ而シテ削除ニハ字數ヲ計算ス可キモノナルカ故ニ完成セザル文字ト雖モ之ヲ一箇ニ算入スルヲ可トス

證書ニ加除改正アルモ公証人ニシテ前述ノ手續ヲ履行セザルトキハ追加改正消字ノ效ナク追加文字ハ無用ノ記載タルニ止マリ消除文字ハ尙ホ其字用ヲ留保スルノ結果ヲ生ズ

(ニ)空白抹消 證書中ノ空白ハ不正ノ記入ヲ防爲爲之ヲ抹消セザル可カラズ空白ハ當然文字ヲ記入セラズ可キ字行ナルニ係ル文字ヲ以テ補填スラレザル部分ヲ云フ從テ當然ニハ文字ヲ記入ナカル可キ欄外又ハ末尾ノ餘白ト異質ナリ故ニ證書中接續シ得可キ字行ニ空白ヲ存シタルトキハ其多少ニ拘ハ

ラス黒線ヲ以テ文字間ヲ接續セタル可カラス
 (4)署名捺印 公證人及關係人ノ署名捺印ハ證書成立ノ一要件ニシテ證書作成後ニ於テ之ヲ缺タトキハ證書全部無効トナリ文字ノ追加改正削除ニ於テ之ヲ缺タトキハ加除改正ノ効ヲ生セザルモノトス前者ニアリテハ證書ノ末尾ニ後者ニアリテハ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ於ケル其旨ノ記載下ニ公證人當事者及立會人各自署名捺印スルコトヲ要ス
 印鑑ハ公證人ニアリテハ其資格ヲ以テ證書ヲ作成スルモノナルカ故ニ必ス法定ノ役印ヲ使用セタル可カラス關係人ニアリテハ必スシモ其氏名ヲ表彰シタルモノニ限ラス其印鑑トシテ届出テ且ツ慣用スルモノタルヲ要ス從テ郡區長ノ證明書ニ依リ之ヲ明カニスル必要アル可シ
 署名ハ各自自署ス可ク疾病又ハ無教育ノ結果署名スル能ハサル者ハ他人ヲシテ代書セシムルコトヲ得レトモ其實印ハ必ス之ヲ押捺ス可ク且ツ其代書シタル者ハ本人ノ氏名ノ傍ニ其代署シタル事由並ニ自己ノ氏名ヲ記入シテ實印ヲ押捺セタル可カラス若シ此規定ニ違背シテ此缺點ヲ補ヒタルトキハ其證書ハ

全く公正ノ効力ヲ生セザルモノトス
 此ノ如ク公證人及關係人累次署名捺印ス可キモ其日ヲ異ニシタルトキハ其旨ヲ明カニス可シ之レ其能力身分ニ影響ヲ有スレハナリ
 (5)讀聞 公證人カ證書ヲ作成シタルトキハ自己及關係人ヲシテ之ニ署名捺印セシムル前其附屬書類ヲ除キ本書ヲ關係人ニ讀聞カセザル可カラズ關係人ハ之ニ依リ成立シタル本書ハ如何ナル内容ヲ有スルカヲ知得シタル後之ニ署名捺印ス可ク爾後其本書ノ内容ニ因リテ拘束セラルルモノトス公證人ハ關係人ニ讀聞カセタル旨ノ記載ヲ爲シ末尾ニ於テ某區裁判所管内某地住居ト肩書シテ之ニ署名捺印ス於是公正證書始メテ完成ス
 (6)契印 證書ハ法定ノ野紙ヲ使用ス可ク用紙數葉ヲ要スルトキハ之ヲ一括シテ書類ヲシテ一冊タラシム可シ故ニ一葉ヲ以テ足レリト爲サザルトキハ各葉ヲ分離セシム可カラズ必ス之ヲ編綴スルコトヲ要ス而シテ此場合ニ於テ何等ノ注意ヲモ施サザルトキハ偶々捺印ナキ部分ハ加除變換セラルル危險少ナカラサルヲ以テ證書ノ綴目及合目ニハ公證人及囑託人ノ捺印ヲ要スルモノト

セリキ... (子) 附屬書類並證書ノ作成ニ關係スル書類ハ附屬書類トシテ本書ニ連綴セルモノトス而シテ書類中連綴ス可キモノト命シタルモノアリ或ハ之ヲ適宜ニ放任シタルモノアリ前者ハ囑託人カ代理人ヲ以テ公證人ノ面前ニ出頭シタル場合ニシテ既ニ説明シタルカ如ク代理人ヲ用ヒタルトキハ其委任狀又ハ證明書ヲ所持シタルコトハ證書ノ記載事項ヲ爲スモノナルカ故ニ委任代理人ノ場合ニアラテハ委任狀法定代理人ノ場合ニアリテハ後見人又ハ親權者タルノ證明書カ證書ノ成立ニ極メテ緊要ナル關係ヲ有ス然レハ公證人ハ代理人ノ提出シタル委任狀又ハ證明書ニ基キ其寫ヲ作成シ更ニ本書ト對照シタル上相違ナキ旨ヲ附記シ關係人ト共ニ署名捺印シテ之ヲ本書ニ連綴シ其合目ニ捺印ヲ施ササル可カラス若シ夫レ其必要ノ程度カ委任狀又ハ證明書ニ均シカラス唯タ證書ニ多少ノ關係ヲ有スル書類例之印鑑證明書又ハ登記簿謄本ノ如キハ公證人ニ之ヲ適宜ニ本書ニ連綴スルコトヲ得可シ之ヲ連綴シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シタル上公證人並ニ關係人捺印スルコトヲ要ス其他證書

ニ關係ナキ書類ハ附屬書類タルヲ得ス從テ本書ニ連綴スルコトヲ得サルモノトス
 (リ) 保存ニ公證人ハ其作成ニ係ル書類證書ノ原本ヲ保存スル義務アリ若シ之ヲ始メヨリ保存セサルカ又ハ一旦保存シタルモ亡失シタルトキニ當リ法定ノ手續ヲ履マサルトキハ其證書ハ公正ノ效力ヲ有セサルモ且ト之ニ付テハ後ニ至リ詳述ス可キヲ以テ茲ニ説明ヲ省ク類本或ハ出頭シテ其旨ヲ出頭シ付キ
 (ス) 印紙貼用 印紙税法ハ財産權ノ創設移轉變更若シクハ消滅ヲ證明スル證書ニハ一通毎ニ其記載ノ金額又ハ價額一萬分ノ五ニ相當スル印紙稅ヲ納付ス可ク其納付ハ證書ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ爲ス可キモノト定メ其證書ノ私署タルト公正タルトヲ問ハサルカ故ニ公證人ノ作成スル公正證書モ亦此法ノ支配ヲ受ク可キモノニシテ公證人規則第四十二條ニ於テ相當印紙ノ貼用ヲ命シタル所以ナリ而シテ印紙税法ハ此貼用ノ義務ヲ作成者ニ命シ公正證書ニアリテハ公證人カ其作成者ナルコト明カナルカ故ニ此義務ヲ負擔スル者ハ公證人カリ然レドモ其費用ハ更ニ之ヲ囑託人ニ對シ請求シ得ルコト勿論ナリトス(第六

十九條

此ノ如ク印紙ノ貼用ヲ要スルハ證書ノ原本ノミニ限リテ抄本原本ニ及ハス何トナレハ印紙稅法ニ於テハ公署ヨリ發スル證書又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書ニハ印紙稅ノ納付ヲ免除シ抄本原本ノ如キハ全ク之ニ該當シ且ツ公証人規則ニ於テモ原本ニ付テノミ印紙稅法ニ從テ可キ旨ヲ命スレハナリ

第二項 原本以外ノ書類

公証人カ作成スル書類ハ原本ノ外正本原本及見出張ノ三トス見出張ニ付テハ既ニ説明シタルカ故ニ(第八八頁以下參照)本項ニ於テハ正本及原本ノ作成手續ヲ違フ可シ
正本ハ原本ト獨立シテ存在シ恰モ他ノ原本タルカ如キ觀アリ正式原本ハ原本ニ代ヘ得可キモノニシテ二者共ニ原本亡失ノ場合ニ於テハ原本トシテ保存スルコトヲ得ルモノナリ而シテ原本ハ總テノ證書ニ付テ之ヲ交付シ得可シト雖

モ正本ハ其全文コン原本又ハ原本ト相同シキモノニ執行文ヲ付與スルトキハ強制執行ノ基本タル債務名義ヲ爲スモノナルカ故ニ證書ノ本旨カ直接ニ強制執行ヲ許スモノナル場合ノ外ハ自ラ之ヲ作成下付スルヲ得サルナリ即チ數量ノ定アリタル金錢其他換用物若シクハ有價證券ノ支拂ニ限リ正本ノ付與ヲ許ス可キモノニシテ是等以外ノ場合ニ於テ其付與アルモ正本トシテノ效力全クナキモノトス又不適法或ハ不完全ナル公正證書ハ執行シ得可カラサルコト論ヲ埃タス從テ此ノ如キモノニ付テ正本ノ存在ハ許ス可キニアラサルナリ
正本及正式原本ノ作成ハ多ク原本ノ規定ニ違フ即チ字書ヲ明瞭ニシ普通平易ノ文字ヲ用フ可ク空白ハ墨線ヲ以テ接續セシメ數量並ニ年月日ハ壹貳參ノ數字ヲ以テ記載シ證書ノ加消改正ニハ其旨ノ記載及捺印ヲ爲ス可ク其綴目合目ニハ契印ヲ施ス可キコト等是ナリ
正式原本ノ作成ニモ亦立合人ヲ必要トス然レトモ其作成ノ時期及狀態ニ因リ立合人タルモノヲ異ニス原本ト同時ニ作成スルトキハ本書ノ作成ニ立會ヒタル關係人ノ面前ニ於テ之ヲ作り權利者ノ氏名並ニ作成ノ年月日及場所ヲ記載

シ公證人及義務者之ニ署名捺印可キモノトシ反之原本ヲ作成シ後ニ於
 之ヲ作ルトキハ更ニ關係人一同ヲ招集シテ立會ハシムルコトヲ要セス單ニ
 義務者ノ立會ノミヲ以テ十分トシ權利者ノ氏名並ニ作成ノ年月日及場所ヲ記
 シタル上公證人及義務者之ニ署名捺印ス但シ義務者ノ出頭セサル場合ニアリ
 テハ之ヲ強制スルコト能ハサルカ故ニ正式謄本ノ下付ヲ請求スル者ヨリ其旨
 ヲ具シ管轄地方裁判所ニ出願シテ其命令ヲ得タル上公證人ニ他ノ公證人一員
 又ハ當該裁判所ノ判事檢事又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作成シ權利者ノ氏
 名並ニ作成ノ年月日及場所ヲ記入シ作成シタル公證人及立會ヒタル公證人又
 ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ若シ署名スル能ハサルトキハ他人ヲシテ代書
 セシメ其實印ヲ押捺シ且ツ代書人ハ其代書ノ事由並ニ其氏名ヲ本人ノ氏名ノ
 傍ニ記入シテ捺印セサル可カラズ以上ノ記入事項ヲ遺脱シ又ハ署名捺印ヲ缺
 キタルトキハ正式謄本ノ效ナキモノトス而シテ義務者ノ出席ナク裁判所ノ命
 令ニ依リ他ノ立會人ヲ以テ之ヲ作成シタルトキハ各書類ノ末尾並ニ原本ノ末
 尾ニ其旨ヲ附記シ裁判所ノ命令書ハ之ヲ原本ニ連續シテオカサル可カラズ又再

度以上之ヲ作成シタルトキハ其正式謄本ノ末尾ニ幾度ノ正式謄本ナルコトヲ
 附記シテ公證人之ニ署名捺印ス可シ若シ此附記又ハ署名捺印ヲ遺脱シタルト
 キハ該書類ハ其效ヲ生ゼサルモノトス
 正本ノ作成ハ公證人規則ニ於テ之ヲ正式謄本ト同一方式之下ニ盡キタリト雖
 モ民事訴訟法并於テハ原本ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス可キヲ定メタルノミ
 ニシテ同法ノ規定多ク公證人規則ト一致ニ缺キタリ例之公證人規則ニアラズ
 ハ正本ニ依リ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願出ツ可キ旨ヲ定メタル民事訴訟法ニ
 アリテハ債務名義ハ公證人ノ付與シタル執行文ノミヲ以テ十分トシ毫モ出願
 ノ手續等ヲ規定セザルカ如シ從テ此等ノ趣意ヨリ推シテ該規則中正本作成ノ
 規定ハ訴訟法ニ依リ廢止セラレ義務者公證人裁判所職員ノ立會又ハ署名捺印
 ヲ要セザルモノト爲ヌヲ適當トスルニ似タリ
 公正證書ノ本質ホ數人間ノ關係タル數事件例之多數當事者間ノ債務關係ヲ如
 シテ列記シ數人各自關係ヲ同然ニセザルモノトシ各人ノ爲メニ正本又ハ正式謄
 本ヲ作成スルハ無用者乎故ト言ハ業ル可ク亦又故ニ權利者ノ請求アルトキハ

原本中各其有用ナル部分ノミヲ抄録シテ正本又ハ正式原本ヲ作ルコトヲ得可
 シ之ヲ抄録正本又ハ抄録正式原本ト云ヒ唯タ全交ヲ記載セサル點ニ於テハ
 正本又ハ正式原本ト異ルノミシテ其效力ニ至リテハ全ク相同シ從テ其作成
 手續モ前述ノ如クニシテ些少ノ差異ナキモノトス
 原本ハ原本ノ寫タルノ外何等ノ效力ナシ從テ其作成ノ手續モ亦甚タ簡易ナ
 トス即チ原本ノ全文ヲ記載シ其末尾ニ原本タル旨ヲ附記シテ公證人ニ署名
 捺印ス可シ故ニ全ク立會人ヲ要セスト雖モ然カモ原本ノ寫タルヲ以テ假令原
 本ニ不完全又ハ不適法ナル箇所アルトモ訂正スルコトヲ得シテ其儘ニテ之
 ヲ表現セサル可カラス又各證書ハ之ヲ抄録シテ原本ヲ作成シ得可シ之ヲ抄録
 原本ト云ヒ原本ノ一部ヲ記載シ且ツ原本作成ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職
 業氏名ヲ記入シ其末尾ニ抄録原本ナル旨ヲ附記シ公證人ニ署名捺印ス若シ
 以上ノ原本ニシテ關係人以外ノ者ニ下付シタル場合ニアリテハ管轄地方裁判
 所ノ下付命令書ヲ原本ニ連續シ其末尾ニ命令ヲ受ケタル旨並ニ其年月日ヲ附
 記シ受取人ヲシテ之ニ署名捺印セシメ可キモノトス但シ原本ノ作成又ハ下付

ニ當リ前記ノ手續ニ違背スルモ此ノ如キ書類ハ本來失フ可キ公正效ナキカ故
 ニ唯タ當該公證人カ最輕ノ懲戒罰ヲ課セラルルニ過キサルモノトス
 證書ノ附屬書類モ亦關係人ノ請求アレバ其寫ヲ作成シテ之ヲ下付スルモノト
 ス之カ作成ニハ何等ノ規定ナシト雖モ少クトモ公證人ハ其作成者トシテ署名
 捺印スルコトヲ要ス可シ

第三節 證書ノ保存及其付與

公證人ハ其作成シタル公正證書ノ原本及之ニ關スル其他ノ書類ノ本書ヲ保存
 スル義務アリ原亦其他ノ書類ハ公證人ノ私有財産ヲ爲スモノニ非ラスト雖モ
 公益上至大ナル價值ヲ有スルモノナルヲ以テ公證人タル資格アル者ニ對シ之
 ヲ保管ス可キ職務上ノ義務ヲ負ハシメタリ而シテ此等ノ書類ハ之ヲ開示シ若
 シタハ其抄本原本ヲ下付シ得可キヤツ常ニ其役場ニ於テ保存スルコトヲ要シ
 他ノ官吏ノ公證ヲ受タル爲メ若シタハ裁判所ノ判決又ハ命令ニ因ルノ外之ヲ
 役場外ニ持出スコトヲ得ス又擅ニ他人ニ之ヲ開示スルコトヲ得サルナリ他ノ

官吏カ公證シ或ハ民事裁判所カ公證人ニ對シ證書提出ノ義務アリト裁判官或ハ刑事裁判所又ハ豫審判事カ犯罪ノ審判又ハ其捜索ニ付キ必要ト認メテ提出ヲ命シ又ハ押收シタルトキハ其場合ノ如何ヲ問ハス之ニ從フノ義務アリ書ニ本書ニ添付ノ委任狀ノ提出ヲ求メラレタルトキト雖モ法律ハ附屬書類ヲ本書ニ連續ス可キヲ命シ擅ニ之ヲ分離シ得可カラサルカ故ニ連續ノ儘ニ之ヲ提出ス可キモノトス然レトモ送付ノ囑託ニ付テ之ニ從フノ義務ナキモノナリ公證人カ死亡失踪辭職免職等其他ノ事故アリテ失格シタルトキハ書類保管ノ義務ハ其後任者又ハ兼任者ニ移轉ス之レ此ノ如キ義務ハ公證人タル職務ニ伴フモノニシテ公證人ノミ之ヲ負擔スレハナリ然レトモ此義務移轉ノ時期ハ提要目錄ヲ作成シ書類授受ノ手續ヲ完了シタルトキニアル可キハ既ニ述ヘタルカ如シ(第六八頁以下參照)

既ニ公證人ニシテ書類保管ノ義務アル以上ハ之カ亡失アルニ當リ其責ニ任ス可キ者亦當該公證人ナリト言ハサル可カラス凡ソ公正證書ニ公正效ヲ認ムルハ嚴格ニ論スレハ其原本ニ對スルモノニシテ從テ其作成ニ非常ニ嚴正ナル手

續ヲ要求シ正本謄本皆之ニ依據シテ發生スルニ因リ亦幾干ノ效力ヲ認ムルルナリ故ニ原本ヲ保存シ且ツ其保存ヲ持續スルニ依リテ始メテ完全ナル公正效ヲ認定シ得可シ然レハ公證人カ原本ヲ作成シナカラ之ヲ保存セサルニ於テハ原本ニ依據スル抄本謄本ハ勿論一旦作成セラレタル證書ハ總テ不確實ヲ來タン到底之ニ多大ノ信憑ヲ附與スルコト能ハス從テ法律ハ此ノ如ク原本ヲ保存セサル證書ハ公正ノ效ナシト宣言シタリ然レトモ一旦原本ヲ保存シタルモ不可抗力若シテハ過失等ノ爲メニ之ヲ亡失シタルトキハ此亡失ニ因リ直チニ公正效ヲ失ヘシムルハ當事者ノ利益ヲ害スルコト大ナルカ故ニ法律ハ公證人ニ命スルニ其補充ノ途ヲ執ル可キヲ以テセリ即チ管轄地方裁判所ニ其正本又ハ正式謄本ヲ提出シテ其認可ヲ經タル上爾後之ヲ原本トシテ保存ス可キモノトス而シテ公證人ハ一面囑託人ニ對シテモ保管ノ責任ヲ負フモノナレ其過失ニ因リ亡失シタルトキハ相當ノ義務ヲ盡ササル可カラス

公證人ハ其職務上取扱ヒタル事項ニ付キ秘密ヲ嚴守セサル可カラス即チ一劣ニ於テハ其公證人タル資格ニ於テ依屬ヲ受ケタル事件ヲ漏洩ス可カラサルト

其ニ他ノ一方ニ於テハ管轄裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ該事件ニ關係ナキ者ニ證書ノ原本ヲモ下付ス可カラサルモノトス此ノ如キハ公證人ハ違言其他箇人ノ内事ニ付キ其實ヲ聽キ之ヲ證書ニ作成スルモノナレハナリ

黙秘ノ義務ハ場合ニ依リテ其範圍必スシモ同一ナラス關係ナキ箇人ニ對シテハ其取扱ヒタル公證事件全般ニ付キ限リニ之ヲ漏洩ス可カラサルモノトス故ニ當事者ノ氏名契約ノ年月日等ニ至ル迄一切ノ事項ヲ黙秘ス可キモノナリ然レトモ證人トシテ裁判所ニ出頭シタルトキハ黙秘ノ範圍狭少ニシテ其職務ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リ知リタル事實ニ限リ而カモ其實中黙秘ス可キ事項ニ關スル場合ニノミ證言ノ拒絶ヲ申立ツルコトヲ得セシメタリ之レ公法上ノ義務ノ例外タル結果ナレハナリ

證書ノ原本等ハ其作成ニ何等ノ關係ナキモノニ對シテ之ヲ下付ス可カラサルヲ原則トス余輩ハ此義務ニ關連シテ茲ニ書類ノ下付ヲ説明ス可シ

書類ヲ下付スルハ原本ヲ保管スル公證人ナリ多クノ場合ニ於テ書類ヲ下付スルハ原本ヲ作成シタル公證人ナリト雖モ下付ト原本ノ作成トハ必然ノ關係ヲ

有スルモノニアラス作成シタル公證人及下付請求ノ當時會々原本ヲ保存シタルカ爲メ之ヲ下付スルニ過キス作成セサル公證人ナリトモ原本ヲ保存スル以上ハ下付ヲ妨ケサルナリ例之作成シタル公證人カ失格シタルニ因リ其後任者又ハ兼任者トナリタル者ハ其任命以後ニ於テ書類ノ下付ヲ請求スル者アラハ後任者タリ又ハ兼任者タル旨ヲ附記シテ下付スルヲ得可シ之レ全ク後任者又ハ兼任者カ前任者ノ書類ヲ承繼シテ請求當時其保管者タリシカ爲メニ外ナラス之ヲ明文ニ照査スルモ或ハ管轄裁判所ハ原本ヲ保存スル公證人ニ正式原本ヲ渡ス可キコトヲ命スルコトアル可シト云ヒ公證人規則第四十九條或ハ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與スト云ヒ民事訴訟法第五百六十二條前條ノ趣意ヲ表示セリ故ニ書類ヲ下付スル者ハ其請求ノ當時ニ於テ原本ヲ保管スル公證人ナリト云ハサル可カラズ

書類ノ總テ關係者ノ請求アルニ因リ當該公證人之ヲ付與スルヲ原則トシテモ稀レニハ裁判所ノ命令ニ因リ之ヲ下付スル場合ナキニアラス即チ正本及正式原本ノ再度以上ノ付與及關係人以外ノ者ニ對スル原本ノ付與ノ如キ是ナリ

而シテ公證人が付與ス可キ書類ハ其原本カ公正證書トシテ完成セラレタルコトヲ要ス或ハ必要ナル捺印ヲ缺キ又ハ重要ナル方式ニ違背シタルカ如キトキハ適法ナル原本存在セザルカ故ニ下付ノ權限アル公證人アルコトヲ得テ其付與ハ到底豫想シ得ザル所ナレハナリ又一旦原本成立スルモ其後亡失シモ其補充ナキ間ハ是亦付與スルコトヲ得タルナリ然レトモ公證人カ或行爲ニ付キ懲罰ニ付セラルル爲メ審問中ニアルトキハ尙ホ其權限ヲ喪失セザルヲ以テ此理由ニ因リ付與ヲ拒ムコトヲ得ス唯テ請求者カ法定ノ手数料ヲ納付セザルトキハ付與ヲ拒絕スル權アリトス

付與ス可キ書類ハ草案ヲ除キ正本謄本及附屬書類ニマテ及フモノトス正本及抄録正本ハ數量ノ定マレタル金銭換用物有價證券等ノ支拂ヲ奉旨トスルモノニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ付與シ正式謄本抄録正式謄本ハ其本旨ニ關スル制限ナク權利者ノ請求アレバ之ヲ付與ス而シテ數人各自ノ異ナル關係ヲ包括スル證書ニアツテハ各權利者ノ請求アルトキハ其有用ナル部分ノミヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作り之ヲ請求者ニ付與スルコトヲ得セシメタリ而シ

テ正本正式謄本ハ前述ノ如ク其性質上他ノ書類ニ比シ重要ナルモノナル故ニ再度以上之ヲ付與セザルヲ原則トス

此理由ヨリシテ正本又ハ正式謄本ヲ付與シタルトキハ原本ノ末尾ニ其付與ノ旨及年月日ヲ附記シ且ツ權利者ヲシテ之ニ署名捺印スルノ手續ヲ執ラシテ一度正本又ハ正式謄本ヲ付與シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ付與ス可カラス又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ付與シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ付與ス可カラス假令之ヲ付與スルモ其書類ノ效力ナカル可キモノト爲シタリ

謄本及其附屬書類ハ關係人ノ請求アリタルトキハ法定ノ方式ニ從ヒ之ヲ作成シタル上付與ス此付與ニ付テハ何等ノ制限ナシト雖モ謄本ニ限リテハ管轄地方裁判所ノ命令アルトキハ關係人以外ノ者ニモ之ヲ付與スルコトヲ得可シ關係人トハ或ハ沉黙該證書ニ付キ權利上直接ノ利害關係ヲ有スル者ヲ言フカ如クレトモ此ハ如キ直接ノ權利關係アリキ否キヲ判斷ハ程度問題ニ歸シテ之ヲ公證人ニ委任スル其嚴正ノ維持上極メテ危險ナルカ故ニ總テノ法文ニ於テ同

一義ニ解シ公證第三十四條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

一義ニ解シ公證第三十四條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

一義ニ解シ公證第三十四條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

一義ニ解シ公證第三十四條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

キハ其書類ハ何等ノ效力ヲモ有セザルナリ正式勝本ハ再度以上ノ付與ニ付テモ其手續ハ前述シタル所ニ同シトス

正本ノ再度及其後ノ付與ニ付テハ公證人規則ニ於テ正式勝本以下付テ同ニ之ヲ規定シタリ公第四十九條然レトモ該規則中正本ニ關スル規定ハ民事訴訟法ト一致ヲ缺ク點寡カラズ而シテ訴訟法以後ニ發セラレタルモノナルニ依リ前法タル公證人規則中正本ニ關スル規定全部ヲ廢止シタルモノナリト爲ス説アリ或ハ二法律中重複抵觸スル部分ニ付テノミ訴訟法ノ規定ニ從テ可レト言フ説アリ又一方ニ於テハ訴訟法ニ依レハ正本ト雖モ公證人ハ債務者何某ニ對スル強制執行ノ爲メ債權者何某ニ之ヲ付與ストテ執行文ヲ其末尾ニ記載スルニ非サレハ債務名義タルモノトテ得ザルガ故ニ此ノ如キ執行力アル正本ト執行力ナキ正本トノ二種ヲ生ス可キヤ論ヲ挾タズ於是乎再度及其後ノ付與ノ手續ハ之ヲ二分シテ論セザル可カラズ

執行力アル正本ノ再度及其後ノ付與ハ其原本ヲ保存スル公證人ハ職務上ノ任務ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ノ裁判ヲ必要トス何トサレハ民事訴訟法ニ

於テ正本ノ執行文付與ニ關スル異議及更ニ執行文付與ニ付テノ裁判ハ公證人ノ住所地方管轄スル區裁判所之ヲ爲スモノトシ民訴第五百六十二條第二項公證人ノ作成シタル公正證書ニ依リ強制執行ヲ爲スニハ執行力アル正本ニ依ラサル可カラス從テ更ニ執行文付與トハ再度及其後ニ於ケル執行力アル正本ノ付與ヲ指スモノナレハ此付與ニアリハ前記ノ區裁判所ノ命令ヲ要ス可ク少クトモ此種ノ正本ニ付テハ公證人規則ノ規定ハ廢止セラレタルコト明カナリ從テ公證人ハ區裁判所ノ命令ニ基キ付與シタル旨並ニ幾度ノ正本ナルコトヲ附記シテ之ヲ付與ス可キモノトス

十九條ハ其效力ヲ持續スルモノトスル一部廢止說ヲ執レハ其再度其後ノ付與ハ管轄地方裁判所ノ命令ヲ要スルコトナリ又正本ニ關スル規定ハ全然訴訟法ニ依リ廢止セラレタリトノ說ヲ執レハ何等ノ命令ヲモ要セス權利者ノ請求ノミニ依リ其付與ヲ得可キモノトノ論結ヲ生ス可シ余輩ハ執行力オキ正本カ

原本ニ比シ幾何ノ價值ヲモ有スルモノニ非ラス之ニ執行文ヲ附記スルニ因リ始メテ執行力ヲ有ス訴訟法カ公證人規則ニ於テ正本ノ付與トアルヲ執行文付與トシタルモ専ラ執行文ニ重キヲ置キタルヲ知ルニ足ル可ク其附記ナキ正本ニ至リテハ付與ノ手續ヲ鄭重ナラシムル必要ナレトスルヲ以テ寧ロ後說ニ贊セント欲ス

茲ニ一言ス可キハ我法律ニ於テハ或外國法ニ認メタル如キ公正證書原本ノ閱覽ヲ何人ニモ許與セザルコト是ナリ權利者ハ證書ノ正本又ハ正式原本ヲ請求スルヲ得可ク關係人ハ原本ヲ請求シ得可ク關係人以外ノ者ト雖モ尙ホ若干ノ必要アルトキハ管轄地方裁判所ノ命令ニ依リ正本ヲ得可クシテ其正本原本ハ何レモ原本ノ全文ヲ以テ其内容ト爲スカ故ニ毫モ原本ノ閱覽ヲ許スノ必要ナケレハナリ或ハ法律ハ公證人ニ其書類ノ保存ヲ命シ役場外ニ持出スコトヲ禁スルノミニシテ其役場内ニ於ケル閱覽ハ無制限ニ之ヲ許シタルモノノ如シト雖モ之ト同時ニ黙秘ノ義務ヲ課シタル以上ハ漏洩トハ正當ヲ理由ナクシテ公證事件ヲ曝露スルノ義ニ外ナラス敢テ其方法ヲ論ゼザルモノナルカ故ニ其理

由ノ如何ヲ問ハス無制限ニ閱覽セシムル如キハ職權ヲ以テスル官廳ニ對シ
テ之ヲ開示スルト異リ一ハ漏洩タル妨ヲ生ズルナリ若シ然ラバ由センカ一方
ニ於テハ原本ヲ役場内ニ歸シテ不正ノ壓迫ヲ避ケントシナカラ他方ニ於テ隨
意ニ一切ノ人ノ近接ヲ許スカ如キハ嚴正ノ維持止甚シキ矛盾ヲ生ハサル可カ
ラナレハナリ

第四節 證書ノ失効

證書カ公正效ヲ生ズルハ公證人カ適法ニ之ヲ作成シタルトキニ限ルモソシ
テ若シ其作成カ法律ノ規定ニ違背シタルトキハ其證書ハ或ハ全部或ハ一部
ノ效力ヲ失フモノトス

(一)一部ノ失効トハ公正證書中法律ノ規定ニ違背シテ作成セラレタル部分
ニ其效果ヲ生セザルニ止マリ他ノ部分ノ效力ニ關係ナク證書全體ニ其影響ヲ
及ボササルヲ云フ即チ公證人カ自己親屬立會人又ハ證人ヲ爲フニ利益アル條
件ヲ證書中ニ記入シタルトキハ其條件ノ無効ニシテ證書中ノ他ノ部分ハ依

然トシテ公正效ヲ保有ス又證書中ニ法定ノ方式ヲ履ケズシテ文字ノ追加改正
消除ヲ爲シタルトキハ加字ニ塗抹存在セザルモノニ均シク消除ニ入リテハ却
テ原字ノ復活ヲ見ル可ク改正モ亦其結果ヲ見ルコト能ハス各所爲ハ何レモ其
自體ノ無効ナルニ歸スルナリ
(二)全部ノ失効 トハ證書カ權限又ハ職務執行ニ關スル規定若シテハ法定ノ形
式ニ違背シテ作成又ハ付與セラレタルトキニ當リ證書全部カ公正ノ效ヲ有セ
ザルヲ云フ一部ノ失効ニ比スレバ其失効ノ部分カ廣ク證書全體ニ涉ルノ點ト
其失効ノ程度カ全然無効ニ至ラザルニ止ル但シ多少ノ例外アリテノ點トニ於テ差
異アリトス
(イ)法令ノ規定ニ背キタル事件或ハ他官廳ノ專權ニ屬スル事件ニ付キ作成
左ノ如シ
(ロ)愛持區外ニ於テ作成シタルモノニ公第七條

コトヲ得ヘキナリ
 (一) 執行裁判所ハ差押債權者執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニヨリ法律ノ規定ニ係ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲナスヘキ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ賣却ヲ爲サシムル事ヲ命スル事ヲ得面シテ執行裁判所カ此命令ヲナシタルトキハ執達吏ハ此命令ヲ遵守シ其命スル所ニ從ヒテ自己ノ職務ヲ施行セサルヘカラス茲ニ注意スヘキハ此特別ナル換價方法ハ差押物ノ換價ナル範圍ニ限ラレルヲ以テ執達吏以外ノ者カ差押物ヲ賣却シタル場合ニ於テモ其賣却ヲ終ルヤ否ヤ其者ノ任務ハ終了スヘキヲ以テ其賣却代金ハ之ヲ執達吏ニ交付シ執達吏ハ其領收セシ賣得金ヲ一般執行上ノ手續ニ從ヒテ債權者ニ交付又ハ配當セサルヘカラス

(二) 有價證券ニシテ取引所相場又ハ市相場アルモノタルトキ 此ノ如キ有價證券ハ就賣ノ方法ニヨラス賣却ノ日ニ於ル執行地ノ取引所相場又ハ市相場主トシテ其土地ニ發行スル新聞紙ノ相場表ニ依リテ以テ執達吏ニ於テ適宜ニ賣

却スルコトヲウルモノナリ然レトモ其相場ナキ有價證券ハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ就賣セサルヘカテサルナリ
 有價證券賣却ノ場合ニ於テ若シ其證券カ無記名式ノモノナルトキハ當事者間ノ賣買ヲ以テ直ニ第三者ニ對シテ權利ノ移轉ヲ對抗シ得ヘシト雖モ記名式ノ有價證券ハ名義ノ書換ヲナスニ非レハ第三者ニ對シテ其權利ノ移轉ヲ對抗スル能ハス然ルニ若シ債務者カ書換ノ手續ヲ爲ササルトキハ證券ノ權利ノ完全ナル移轉ハ終ニ爲ヌヲ得サルコトトナリ實際上證券ノ賣却ヲ爲ス能ハサルニ至ラン故ニ此ノ如キ場合ニハ法律ハ之レカ救濟策ヲ講シ此切合執行裁判所ハ債務者ニ代リ其書換ヲ爲シ又此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ヌ權ヲ執達吏ニ與フヘキモノトス又ハ有價證券ニシテ其流通ヲ禁止シタルモノナルトキハ其流通回復ヲナシ又ハ無記名證券ニ書換ヘ之レカ爲メニ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ヌ權ヲ執達吏ニ付與スヘキモノトス而シテ執達吏ハ賣却前ニ氏名ノ書換又ハ流通ノ回復ニ付キ必要ノ陳述ヲナス權利ヲ得ルタメ債務名義ノ證及ビ差押調書ヲ添ヘ執行裁判所ニ届出テサルヘカラス

以上述フルカ如ク執達吏カ有價證券ヲ適宜ニ賣却スル場合ニ於テハ其營業人ノ媒介ヲ求ムルヤ又自ラ其周旋ヲ爲スヤハ執達吏ノ見込ニ任ス其營業人ノ媒介ヲ求ムル場合ニ於テハ賣却ニ關スル調書ニ換ヘ其計算書ヲ執行記録ニ添附スルヲ要ス而シテ執達吏ハ何レノ場合ニ於テモ代金支拂濟ニ非レハ其證券ヲ引渡ス可カラズ

手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ハ一種ノ債權ニシテ決シテ有體動産ニ非ス從テ之ニ對スル強制執行ハ次號ニ說明スル債權ニ對スル強制執行ノ部ニ於テ說明スルヲ學組織ノ系統上當ヲ得タルモノナリトセサルヘカラサレトモ此等ノ證券ハ普通ノ債權證書ト異リ其差押ヲ爲スニ當リテ執行裁判所ノ決定ヲ要セス有體動産ニ於ルカ如ク執達吏其證券ヲ占有シテ差押ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ民事訴訟法第六〇三條便宜上此レヲ茲ニ併セ說明セントス

手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ヨリ生スル第三債務者當事者タル債務者ニ對シテ手形債務ヲ有スル人ニ對スル債權者ノ債權ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲナシウル場合ニ於テハ執達吏ハ普通債權證券ニ對スル強制執行ノ場合ヨ

リモ一層深重ナル注意ヲ爲ササルヘカラス而シテ若シ其債權ノ額及ヒ其支拂期日ノ不明瞭ナルトキハ執達吏ハ其債權ノ差押ヲナスニ當リ債務者ヨリ之ヲ明示シタル時ニ非レハ差押ヲナササルヲ原則トス但シ此明示ナキモ他ニ差押フヘキモノナキ場合又ハ其差押フヘキ物不十分ナル場合ニ限リ此債權ヲ差押フヘキモノトス

元來此等ノ債權ト雖モ其本質上他ノ普通ノ債權ト異ル所ナキヲ以テ執行上ノ處分ニ付テハ普通ノ債權ヲ差押ヘタルトキト同シテ債權者ノ申立ニヨリ執行裁判所カ之ヲ施行スヘキモノニシテ執達吏ハ單ニ其差押ヲミテ爲スモノナルヲ以テ從テ執達吏ハ民事訴訟法第五百九十八條ニ規定スル命令又ハ命令ノ送達並ニ送達ノ通知ハ一ニ之ヲ執行裁判所ノ行爲ニ任シ唯タ此場合ニ於テモ執達吏ハ他ノ差押ト同一ニ債權者及ヒ債務者ニ之ヲ通知スレハ足ル但シ債權者ニハ差押調書ノ原本ニ證據ヲ附シテ之ヲ通知スレハキモノトス

以上ノ場合ニ於ケル差押調書ニハ(一)差押ヘタル債權ノ明示及ヒ此證券ニ關係アル債權者債務者ノ氏名(二)證券ヲ正當ニ占有シタルコトノ記載ヲナササルヘ

カラス

差押ヘタル債權ヲ債權者ニ移付シ又ハ債權者ノ委任スル他ノ執達吏ニ引渡スコトヲ命スル旨ノ執行裁判所ノ決定ノ正本ヲ債權者ヨリ提出シタルトキハ執達吏ハ差押ヘタル債權ニ關係ノ證書類ヲ債權者ニ引渡シ其受取證ヲ取り執行記録ニ添附シ置カサルヘカラス

(三)金銀物ニシテ既ニ競賣ニ付シタルモ其最高競買價額カ其實價ニ至ラサルトキ 此場合ニ於テハ執達吏ハ競落ヲ許スヘキニアラス從ツテ競賣ヲ止メ之ヲ其實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ賣却スヘキモノナリ

(四)動産トシテ差押ヘタル成熟前一箇月以内ノ果實ノ競賣ハ成熟後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス 之レ蓋シ相當ノ代價ヲ以テ賣却セシメントスル便宜ヨリ出テタルナリ

(五)差押ヘタル蠶民事訴訟法第五八條ハ全ク齒トナリタル後ニ非レハ之ヲ競賣スルコトヲ許サス 上ノ(四)ニテ説明シタル果實又ハ本號ノ蠶ヲ差押ヘ且之ヲ占有シタルトキハ適當ノ方法ニヨリ差押標示ヲナシ又ハ其他適宜ノ方法

ニ依リ衆人ニ其差押ヘタル物タルコトヲ知ラシムル事ニ注意セサルヘカラス又場合ニヨリテハ執達吏ハ此等ノ差押物ノタメニ番人ヲ任命スル事ヲ得ルナリ 此種ノ差押ノ場合ニ於ケル差押調書ニハ以下ノ諸件ヲ記載セサルヘカラス即チ(一)果實ニ付テハ地所ノ位置面積ノ概略果實ノ種類(二)蠶ニ付テハ其所在ノ場所數量ノ概略繭ノ種類(三)差押ヘタル果實又ハ蠶繭ニ付キ賣得金ノ見積額(四)差押ヲ爲シタルコトヲ告知スルタメ設ケタル方法若シ管理人ヲ任命シタルトキハ其理由(五)收穫ノ時期之レナリ

第三 照査手續及ヒ配當要求

一人ノ債務者ニ對シ數人ノ債權者アリ而シ此等ノ者カ悉ク執行力アル正本ヲ有シ同時ニ一人ノ執達吏ニ同一ノ強制執行ヲ求メタルトキニ於テハ數人ノ債權者ノタメニ同時ニ普通ノ手續ニ從ヒテ差押ヲナスヘク又一人ノ債務者ニ對スル甲ナル債權者ハ其有體動産ニ對シ乙ナル債權者ハ其不動産ニ對シ強制執行ヲ求ムル場合ハ其兩手續ノ間ニ何等ノ關係ナキヲ以テ普通ノ手續ニ從ヒ執

配當要求ヲナシタルト同一ノ效力ヲ生スルモノトス
 我民事訴訟法ニ於テハ獨逸民事訴訟法ニ於ルト全ク其立法趣旨ヲ異ニシ債權者ハ差押ニヨリ優先權ヲ取得スルモノニ非スト定ム其結果我民事訴訟法ニ於テハ執行力アル正本ヲ有スル債權者カ照査手續ニヨリ配當要求ヲナスコトヲ得ルノミナラス執行力アル正本ヲ有セザル債權者ト雖モ尙ホ民法ノ規定ニ從ヒ配當要求ヲ爲スコトヲ得而シテ此場合ニ於ル配當要求ノ手續ハ其要求者ノ債權ノ金員ヲ開示シ執達吏ニ向フテ之ヲナスヘキモノトス
 右ニ述ヘタル執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル場合及ヒ民法ニ從ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル場合ニ於テハ執達吏ハ配當要求ノアルタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知スヘシ此場合ニ於テ債務者若シ三日ノ期間内ニ執行力アル正本ニ因ラサル配當要求ヲ認諾セザル旨ヲ申立ルトキハ執達吏ハ直チニ其配當ヲ要求スル債權者ニ之ヲ通知セザルヘカラス
 今照査手續ノ説明ヲ終ルニ當リ照査調査ノ書式ヲ次ニ示サン

照査調書

昭和三年 號
 手数料及立替金
 一金 手数料
 立替金
 合計金

請求金額	債權者
一金	債權者
一金	債權者
合計金	
右金額ハ明治 年 月 日	
ニ依リ債務者ノ辨濟スヘキモノトス	
明治三十年 月 日送達シタル右	
ニ依リ	ニ於テ債務者
ハキ旨ヲ催告シタリ債務者	ハ即時辨濟スル能ハサル旨陳述シタリ
依テ前記請求金額並ニ強制執行費用ノ辨濟ニ充ツル爲メ債務者ノ	

財産ヲ差押ヘントシタルニ其財産ノ既ニ差押ニ係ルヲ以テ其差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閲覧ヲ求メ債務者ノ財産

ト對照シタル所一モ差押フヘキ物ナシト對照シタル所ニ對シテ差押ノ手續ニ著手シ同時

明治三十年 月 日 午後 時 分之ヲ止メタリ

此調書ハ左ノ者ニ關シテ所承諾ノ上記名調印シタリ

此調書ハ債務者住所ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

何區裁判所

明三十年 月 日

執達吏

第四 辨濟ノ手續

執達吏カ直接ニ金錢ヲ差押ヘタルトキハ債務者ヨリ差押債權者ニ對シ支拂ヲナシタルモノト見做サルルカ故ニ執達吏ハ其金錢ヲ直ニ債權者ニ交付セサルヘカラス此ノ如クニシテ此場合他ノ債權者ハ其差押金錢ニ對シ配當要求ヲ爲スラ得サルヲ以テ辨濟ニ關シテ何等ノ問題ヲ生セス

金錢以外ノ有體物産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其賣得金中ヨリ強制執行ノ費用(執達吏手数料規則及民事訴訟費用法第十六條)ヲ控除シ其餘金ヲ以テ各債權者ニ屬スヘキ金額ヲ支拂ヒ得ヘキ時ハ即時ニ之ヲ支拂ヒ尙剩餘アルハ之ヲ債務者ニ還シ其計算差引ノ金額ヲ詳密ニ記録ニ明記シ做カサルヘカラスセシキ右ノ如ク賣得金カ債權者ノ債務ノ總額及執行費用ノ總計ヨリモ多額ナルトキハ別段ニ配當ノ手續ヲ要セスシテ執達吏カ賣得金ヲ領收シタル時ヲ以テ債務ノ辨濟アリタルモノト見做サルト雖モ若シ反之シテ賣得金カ債權及執行費用ノ總額ヨリ少額ナル場合ニ於テハ先ツ其各債權者ヲシテ配當ノ協議ヲナサシメ其協議調ヒタルトキハ其協議ニ任セテ手續ヲオシ若シ協議調ハサルトキハ供託規則ニ從ヒ其金額ヲ供託スヘシ此場合ニ於テ執達吏ハ其協議ノ調ヒタル爲メ供託スト云フ事情ノ届書ヲ作成シ此ニ關スル一切ノ書類ト共ニ執行裁判所ニ届出テ以テ手續ヲ實施セシムヘキモノナリ

第二號 債務者ノ有スル債權ニ對スル強制

執行

債務者ノ有スル債權差押ノ方法ハ差押フヘキ債權ノ種類ニヨリテ差押アリ即チ手形及ヒ裏書ニヨリテ讓渡スコトヲ得ル債權ハ金錢ノ支拂ヲ目的トスルト其他ノ給付ヲ目的トスルトヲ問ハス執達吏其證書ヲ占有シテ之ヲナス而シテ此種ノ債權ニ對スル強制執行ニ付テハ先ニ有體動産ニ對スル強制執行第一號ヲ説明セシ序ヲ以テ便宜説明シ終レリ反之シテ裏書ニヨリテ讓渡スコトヲ得サル債權ハ金錢ノ支拂ヲ目的トスルト有體動産ノ引渡又ハ給付ヲ目的トスルトヲ問ハス其債權ノ差押ハ執行裁判所ノ差押命令ニヨリテ之ヲナスモノナリ差押命令ハ債權者ノ申請ニ基キ執行裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ發シ第三債務者及債務者ニ之ヲ送達シ債權者ニハ其送達ヲナシタル旨ヲ通知スヘキナリ差押債權者ハ債權ノ行使ヲナスコトヲ得ルヤ否キヲ知ルニ付キ利益ヲ有スル者ナルヲ以テ差押債權者ハ第三債務者ヲシテ民事訴訟法第六百九條ニ列記スル事項ニ付キ陳述ヲナサシムヘキコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得而シテ右

ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載スヘキナリ
 上述ノ送達ハ常ニ郵便ニヨル送達方法ヲ用キス執達吏ノナス送達方法ニ依ルヘキモノトス而シテ執達吏ハ右命令ヲ速ニ第三債務者ニ送達シ且其送達證書ニ送達時刻ヲ記入スヘク又執達吏ハ右送達ニ際シ第三債務者ヲシテ民事訴訟法第六百九條ニ掲ケタル陳述ヲ送達證書ニ記入セシムヘク又ハ七日ノ期限内ニ通知セシムルコトノ催告ヲ爲スヘシ第三債務者直チニ右陳述ヲ爲サスシテ送達後ニ之ヲ爲ストキハ執達吏ハ速カニ之ヲ裁判所ニ差出ササルヘカラス今茲ニ少シク差押命令ノ事ニ關シ説明ヲ與ヘ之ニ對スル執達吏ノ職務ニ論及セントス差押命令ノ内容ハ差押フヘキ債權ノ種類ニヨリテ異ルモノナリ金錢ノ債權ヲ差押フヘキトキハ第三債務者ニ對シ支拂ヲナスコトヲ禁シ且ツ債務者ニ對シ其債權ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヘカラサルコトヲ命スヘキモノナリ然レトモ其差押フヘキ債權カ有體動産ノ引渡又ハ給付ヲ目的トスル債權ナルトキハ差押命令ニ於テ其動産ヲ債權者ノ委任スル執達吏ニ引渡スヘキコトヲ第三債務者ニ命スヘキモノナリ又差押フヘキ債權カ不動産ニ關スルモノナルト

キ其債権者ノ申立ニヨリ不動産所在地ノ區裁判所ノ命シタル保管人ニ不動産ヲ引渡スヘキコトヲ第三債務者ニ命スヘキモノナリ
 其差押ヘタル債権ニヨリテ債権者ニ辨濟ヲナスノ方法ハ債権ノ種類ニヨリテ様ナラス金錢ノ債権ハ債権者ノ選擇ニ從ヒ之ヲ債権者ニ轉付シ若クハ之ヲシテ取立ヲナサシムルモノナリ然レトモ保證ヲ立テ又ハ供託ヲナシテ執行ヲ免ルルコトヲ債務者ニ許シタル場合ニ於テハ取立ヲナサシムル事ヲツルノミナリ債権者ニ轉付又ハ取立ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲナスモノナリ而シテ轉付命令又ハ取立命令ハ執達吏之ヲ債務者及ヒ第三者ニ送達シ又債権者ニハ其送達アリタル旨ヲ通知スヘキモノナリ
 有體動産ノ引渡又ハ給付ヲ目的トスル債権ニ對スル差押命令アリタル後執達吏カ第三債務者ヨリ有體動産ノ引渡ヲ受ケタルトキハ有體動産ニ對スル強制執行ノ規定ニ從ヒ直チ之ヲ換價シ其代金ヲ以テ債権者ニ辨濟ヲナスヘキモノナリ第三債務者カ任意ニ引渡ヲナササル場合ニ於テハ差押債権者ハ先ツ取立命令ヲ求メ之ニ對シテ訴ヲ起シ強制執行ニヨリ債務者ヲシテ物ヲ取上ケシ

ムヘキモノナリ次ニ不動産ノ引渡ヲ目的トスル債権ニ對スル強制執行ニ關シテハ事執達吏ニ關係ナケルハ茲ニ之ヲ省略ス茲ニ注意スヘキハ動産又ハ不動産ニ關スル債権ヲ差押ヘタルトキハ取立命令ヲ發スル事ヲ得レトモ轉付命令ヲ發スルコトヲ得ス何トナレハ此債権ハ券面額ヲ有セサルヲ以テナリ
 轉付命令又ハ取立命令ヲ得タル債権者ハ債權證書ノ引渡ヲ債務者ニ請求スルコトヲ得ルモノニシテ且強制執行ニヨリ之ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得ルモノナリ故ニ執達吏ハ債権者ノ求メニ因リ執行力アル債務名義ノ證及轉付ノ命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其債權證書ヲ債務者ヨリ引渡サシムヘシ但シ轉付命令又ハ取立命令ハ遲クトモ此強制執行ノ開始前ニ債務者ニ送達スルコトヲ要ス若シ其引渡サシムヘキ證書カ命令中ニ十分ニ明記シアラスシテ債務者ニツキ之ヲ穿鑿シ得サルトキハ執達吏ハ其旨ヲ通知スヘシ此場合ニ於テハ債権者ハ命令ノ補充ヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得而シテ執達吏カ以上ノ強制執行ヲ實施スルニ付テハ全ク動産引渡ニ關スル手續ニ付テノ規定ニ從フヘキナリ

第二項 不動産及船舶ニ對スル強制執行

不動産ニ對スル強制執行ハ強制競賣及ヒ強制管理ニヨリテ之ヲナスモノニシ
 テ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄スルモノナリ執達吏
 ハ唯タ執行裁判所ノ命ニヨリ強制競賣手續中競賣期日ヲ開キ且ツ競買價額ノ
 申出ヲナサシムヘキ任務ヲ有スルノミナリ而シテ船舶ハ純粹ノ不動産ニ非ス
 ト雖モ民事訴訟法第七十七條以下ノ規定ニ從ヒ裁判所ヨリ船舶商法第五百
 三十八條ニ所謂船舶ニシテ端舟其他權權ノミヲ以テ運轉スル舟ハ普通ノ有體
 動產ノ強制執行ノ例ニヨル(キナリ)ノ競賣若クハ入札拂ヲ命セラレタルトキ
 ハ執達吏ハ以下説明スル所ノ不動産ノ競賣若クハ入札拂ニ關スル規定ヲ準用
 シテ之ヲ取扱フヘキモノナルヲ以テ茲ニハ不動産ニ關スル場合ノミヲ説明シ
 船舶ニ關スル説明ハ之ヲ省略スルコトトナシス
 不動産ノ競賣手續ハ民事訴訟法第六百四十四條ノ規定ニ從ヒ不動産差押ノ宣
 言ヲ包含セル競賣手續ノ開始決定ニ始メリ民事訴訟法第六百五十九條ノ規定

ニヨリ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ競賣セシム此場合ニ
 於テ執達吏ハ民事訴訟法第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ニ從テ競
 賣ヲ取扱フヘキモノトス其競賣ヲ取扱フニ付テハ民事訴訟法第六百四十八條
 ニ規定シタル利害關係人ノ立會ヲ通例トス又此利害關係人カ競買人ニ對シ保
 證ヲ立ラシメテ申立ツルトキハ其競買人ノ申出タル價額十分ノ一ニ當
 ル金額ヲ競買人ヨリ現金又ハ有價證券ヲ以テ執達吏ニ預ケタル後ニ非レバ其
 競買ヲ許スヘカラス此他執達吏ハ競賣ヲナス前ニ其競賣物件ヲ競買人ニ指示
 スル等又ハ其競賣ヲナスニハ最高價額ヲ三回呼ヒ上ケタル後ニ非レバ競買人
 ヲ定メスト云フカ如キ動產競賣ノ手續ヲ此場合ニ於テモ其性質ニ於テ許ス限
 リ準用セサルヘカラス
 執達吏カ同一ノ債權者ノ爲メ動產競賣ト不動産競賣トヲ同時ニナスヘキ場合
 ニ於テ動產ノミヲ競賣シテ債權者ノ請求ヲ満足セシメ且ツ強制執行ノ費用ヲ
 償フニ足ルヘキ見込ナルトキハ先ツ動產ノ競賣ヲナスヘキコトヲ裁判所ニ申
 立テ其指揮ヲ受ケサルヘカラス

執行裁判所ハ民事訴訟法第六百五十五條ノ規定ニ從ヒ不動産ノ競買ヲナスニハ先ツ鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競買價額ト定メ競買人ノ競買價額此最低競買價額以下ナルトキハ競落ヲ許ササルモノナルヲ以テ若シ競買期日ニ於テ最低競買價額ヲノ競買人ガキトキハ執達吏ハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出テナルヘカラス此場合ニ於テ執行裁判所ハ最低價額ノ競分ヲ減シ新ニ競買期日ヲ定メテ更ニ其競買ヲ命スヘキモノトス而シテ前述ノ如ク執達吏ハ單ニ執行裁判所ノ命ヲ受ケ競買期日ヲ開キ且ツ競買價額ノ申出ヲナサシムルノ任務ヲ有スルニ過キサレハ競買許可ノ決定ノ如キハ執達吏自ラ之ヲ爲スノ職權ヲ有セス故ニ此場合執達吏ハ單ニ最高價額及其申出人等ニ關シ調書ヲ作り之ヲ裁判所ニ提出シ其指揮ヲ待タサルヘカラス而シテ裁判所カ競落ヲ許ス決定ヲナシタルニ拘ラス債務者カ尙ホ不動産ノ引渡ヲ拒ム場合ニ於テハ執達吏ハ裁判所ノ命ニヨリ其債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡スヘキモノトス此ノ如クニシテ執達吏競買ヲ終リタルトキハ其調書及競買保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノ其他關

係書類等ヲ取纏メ三日以内ニ執行裁判所書記ニ交付セサルヘカラス民事訴訟法第七百二條ノ規定ニ從ヒ裁判所ヨリ不動産ノ入札拂ヲ命セラレタルトキハ執達吏ハ民事訴訟法第七百三條ノ規定ニ從ヒ其入札ノ札ヲ受取リ同法第七百四條ノ規定ニ從ヒ入札人ノ面前ニ於テ開封シ之ヲ朗讀シ同法第六百六十四條及ヒ第七百五條ノ規定ニ從ヒ最高入札人ニ對シ利害關係人ノ求メアルトキハ保證ヲ立テシムル等ノ手續ヲ爲スヘク其他ノ事ニ付テハ競買ノ場合ノ規定ヲ一般ニ準用スヘキモノナリ

第二款 金錢支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

以上前款迄ニ説明セシ所ハ總テ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ノ執行手續ナリ本款ニ於テハ或物ヲ引渡スヘキ義務又ハ或行爲ニ關スル義務若クハ或ル權利關係ノ成立ヲ認諾シ若クハ或ル意思ヲ陳述ヲナスヘキ義務ヲ掲ゲタル債務名義ニ依レル強制執行ノ手續中執達吏ノ職務ニ屬スル執行ニ付テ説明セントス

金銭ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テハ強制執行ハ之ヲ分チテ(一)物ノ引渡ヲ
 求ムル債權ニ付テハ強制執行(二)或行爲ヲ要求スル債權ニ付テハ強制執行ト爲
 スコトヲ得ヘク更ニ(一)ヲ分チテ(イ)執達吏ノ職務ニ屬スル執行(ロ)執行裁判所ノ
 職務ニ屬スル執行ト爲スコトヲウヘク(二)ヲ更ニ(イ)受訴裁判所ノ職務ニ屬スル
 執行(ロ)執行機關ノ行爲ヲ要セサル執行トニ分チ得ヘシ此中ニ就キ本款ニ説明
 スル所ハ(一)ノ(イ)ニ止マル

動産不動産又ハ人ノ住居スル船舶カ債務者ノ占有中ニアルトキ即チ第三者ノ
 手中ニアラザルトキニ於テ其引渡ノ執行ニ付テハ執達吏之ヲ爲スヘキモノト
 ス今次ニ之ヲ詳説セン

(一)動産引渡ノ執行 特定動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡サシム可キ強
 制執行ハ執達吏ノ專行スヘキモノニシテ此場合ニハ執達吏ハ執行方アル債務
 名義ノ證中ニ記載シアリ且ツ其證書文面中ニ包含シタル物ヲ債務者ノ家又ハ
 土藏ニ就キ索出シテ之ヲ取上ケ直チニ之ヲ債權者ニ引渡スヘシ若シ債權者カ
 遠隔ノ地ニアル等ノ事情ニヨリ直ニ之ヲ引渡スニト能ハザルトキハ債權者カ

リ指圖アル迄之ヲ保存スヘシ而シテ其保存ノ手續ハ執達吏職務細則第六十二
 條乃至第六十四條ニ於ケル差押物ニ關スル規定ニ從フヘキナリ

執達吏カ物ヲ取上ケルニ際シ特定物ノ疑ハシキ場合又ハ代替物ニシテ其數量
 疑ハシキ場合ニハ債權者又ハ執達吏ハ鑑定人ヲ立會ハシメ之ヲ定ムルコトヲ
 得又各當事者ハ其等ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第五百四十四條ノ規定ニ從ヒ
 執行裁判所ノ裁判ヲ受タルコトヲ得ヘシ以上ノ如クニシテ執達吏カ物ヲ取上
 ケ之ヲ債權者ニ引渡シタルトキハ債務者自身カ自ラ義務ヲ履行シタルト同一
 ノ效力ヲ生スヘキナリ

執達吏ハ以上述フル所ノ強制執行ヲ爲スニ當リテモ亦圖書ヲ作ラサルヘカラ
 ス而シテ此圖書ハ有體動産差押圖書ニ類スル書式ニシテ該圖書ニハ(一)債務者
 カリ取上ケタル特定動産又ハ代替物ノ箇數度量又有價證券ニ係ルトキハ其券
 面額番號日附(二)物ヲ債權者又ハ其代理人ニ引渡シ若クハ輸送シタル旨又未
 之ヲオサザルトキハ其理由及其保存ノ方法ヲ明記シ置カサルヘカラス而シテ
 其取上ケタル物ヲ債權者又ハ其代理人ニ引渡シタルトキハ必ス其受取ノ證ヲ

記載セサルヘカラス即チ(一)債權者又ハ其代理人ノ出頭シタル旨(二)引渡又ハ明渡シタル物及ヒ其場所ニ現在スル附屬物器具ノ明細(三)債務者ハ其物ノ占有ヲ解キ債權者又ハ其代理人之ヲ取得シタル旨(四)債務者ノ動産ヲ保存シタルトキハ其理由種類並ニ其處分方法等ニ付キ記載ヲナササルヘカラス而シテ其書式ハ有體動産差押調書ニ準シテ作製スレハ足ル

第四款 債權者ノ抵抗除去ニ關スル強制執行

民事訴訟法第七百一十一條第二項ノ場合ノ如ク債務名義ノ執行ニ當リ其行為ヲ耐忍ス可キ義務アル債務者カ其執行ニ耐ヘ得スシテ債權者ニ抵抗スルトキハ債權者ハ之ヲ除去スルタメ執達吏ヲ立會ハシムル事ヲ得ルモノナリ此場合其立會ヲナシタル執達吏ハ債權者ノ提出スヘキ債務名義ノ證ニ依リ債權者又ハ其代理人カ如何ナル行為ヲナスノ權利アルヤ及ヒ債務者カ如何ナル程度迄耐忍スヘキ義務アルヤヲ明細ニ調査シ債權者ノ請求正當ナレハ勉メテ其抵抗ヲ除去シ其目的ヲ達セシムル様取計ヲ要ス若シ其際債務者ノ抵抗ヲ執達吏

一人ニテ除クコト能ハスト認メタルトキハ民事訴訟法第五百三十六條第五百三十七條ノ規定ニ從ヒ警察上ノ援助ヲ求メ又ハ其他ノ人ヲ證人トシテ立會ハシムルコトヲ得然レトモ此ノ如ク威力ヲ用ユル場合ニハ其債務名義ノ證書ノ程度ヲ越エサル様常ニ注意セサルヘカラス而シテ此執行ニ關シ作ル可キ調査ニハ民事訴訟法第五百四十條ニ定ムル諸件ノ外ニ(イ)債務者ノ耐忍シタル行為(ロ)用キタル強制手段ヲ明細ニ記載シ置カサルヘカラス

第五款 證人勾引ニ關スル執行

民事訴訟法第二百九十二條等ノ手續ヲ經テ呼出サレタル證人カ其送達ヲ受ケ乍ラ正當ノ理由ナク出頭セサルトキハ裁判所ハ申立ナシト雖モ決定ヲ以テ其不參ニ因リ生ジタル費用ノ賠償及ヒ二十圓以下ノ罰金ヲ言渡スヘキモノトナスコトハ同法第二百九十四條第一項ノ規定スル所ナリ然ルニ證人ハ鑑定人ト異リ他人ヲシテ代理セシメ得ヘキ性質ノモノニ非ルヲ以テ同條第二項ニ於テ證人カ再度出頭セサル場合ニ於テハ更ニ費用ノ賠償及ヒ罰金ヲ言渡シタル上

尙其拘引ヲ命スルコトヲ得ト定ム此拘引ノ命ヲ執達吏カ裁判所ヨリ受ケタ
 トキハ執達吏ハ必ス其拘引狀ヲ證人ニ示シタル上引致スヘキモノトス此場合
 ノ拘引狀ハ元ヨリ刑事訴訟法ニ所謂令狀ノ中ニ包含サルモノニ非スト雖モ
 若シ其證人カ抵抗シテ之ニ應セザルトキハ執達吏ハ威力ヲ以テ之ヲ引致スル
 コトヲ得ヘキヤ勿論ナリ然レトモ若シ證人カ疾病ニ罹リ之ヲ拘引スレハ其生
 命ヲ危險ナラシムルコトヲ醫師ノ診斷書又ハ執達吏自身ノ實驗ニヨリ認知シ
 タル場合ニ限リ其拘引ヲ停止スヘキモノトス此場合ニ於テハ其停止ノ理由ヲ
 執行調書ニ記載シ其旨ヲ受訴裁判所ニ届出テサルヘカラス茲ニ注意ヲ要スル
 ハ元來裁判所ノナス決定命令ニ對シテハ法律ニ明文アル時ニ限リ抗告ヲ爲ス
 コトヲ得ルモノナリ而シテ通常ノ場合ニ於テハ其抗告アルニ拘ラス裁判ハ進
 行スヘキモノトス民事訴訟法第四百六十條然レトモ證人不參ノ決定ニ對シテ
 シタル抗告ニ付テハ民事訴訟法第二百九十四條第三項ノ規定ニヨリ其抗告ハ
 執行ヲ停止スル效力ヲ有スヘキモノナラズ以テ執達吏カ證人ヲ拘引スル場合
 ニ抗告アリタルトキハ其抗告ニ對シ抗告裁判ヲ完了スル迄ハ拘引スルコトヲ

雜 報

○市外ニ於ケル營業ト市税ノ賦課 市町村内ニ營業所ヲ有スル者ニ對シテ
 ハ其營業所カ營業者ノ本據タルト否トヲ問ハス其營業又ハ其所得ニ對シ市町
 村税ヲ賦課スルコトヲ得ル旨ノ行政裁判所ノ判例ハ本雜報一四頁ニ於テ報道
 シタル所ナルカ今茲ニ市外ニ於ケル營業ニ對シ市税ヲ賦課スルコトノ不當ナ
 リトセル判例ヲ紹介セシムニ曰ク市制第九十三條ニ市內ニ住居ヲ構ヘス又ハ三
 个月以上滞在スルコトヲナシト雖モ市內ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者
 ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル市税ヲ納ムルモノトスルア
 リ之ニ依レハ市內ニ於テ營業ヲ爲ス者ハ其營業ニ對シ市税ヲ納ムルノ義務ア
 ルト同時ニ其市外ノ營業ニ對シテハ納税ノ義務ナキモノト云ハガレ得ス被
 告ハ市制第九十條第一項第一號同第二項前段ニ依リ本訴ノ市税賦課ハ適法ノ
 處置ナリト云フモ同條ハ市税トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ税目ト其税率トヲ
 定メタルモノニシテ市外ニ於ケル營業ニ對シ市税ヲ賦課シ得ヘキコトヲ定メ

タルモノニアラスト(行政裁判所明治三十七年四月二十九日第一郡宣告)

○郡制ニ依ル訴願期間ト有恕 郡制第九條第二項ノ規定ニ依レハ郡制ニ依ル訴願ハ特ニ規定セザル限ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ提起スヘキモノトス此期間ハ訴願法第八條第三項ニ依リ有恕スルコトヲ得ルカ若シ有恕スルコトヲ得ルトセハ如何ナル場合ニ有恕スルコトヲ得ルカ行政裁判所ノ判決ニ曰ク第一原告ハ被告カ訴願法第八條第三項ヲ本件ノ場合ニ適用シ期限ノ有恕ヲ爲シタルハ不法ナリト云フモ訴願法ハ訴願ニ關スル一般法ニシテ他ノ法律勅令ニ別段ノ規定ナキ限リハ之ニ依ルヘキハ當然ナルヲ以テ本件ノ如キ郡制ニ別段ノ規定ナキ場合ニ於テ被告カ右訴願法ノ規定ヲ適用シタルハ不法ニアラス第二原告ハ假リニ訴願法ノ規定ヲ適用シ得ヘシトスルモ本件ノ事實ハ有恕スヘキ事由トナラスト云フモ訴願法ニハ行政廳ニ於テ有恕スヘキ事由アリト認ムルトキ云云トアリテ何等ノ制限モナケレハ被告ノ處置ハ不法ナリト云フヲ得スト(行政裁判所明治三十七年五月十八日第一郡宣告)

○懲戒裁判ニ關スル郡長ノ審問及ヒ場所 町村吏員ニ對スル懲戒裁判ハ町

村吏員ノ懲戒法ヲ設ケルマテ官吏懲戒例ヲ適用シ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決スルモノトス此場合ニ於ケル郡長ノ審問ハ其代理者ヲ以テスルモ可ナルカ又審問ノ場所ハ如何ナル處ニ於テスルモ可ナルカニ付キ行政裁判所ハ共ニ積極ノ斷定ヲ取ラルモノノ如シ其判例ニ曰ク(原告^{成務}カ中新川郡長代理タル同部書記石坂豐一ノ審問ヲ受ケタルコトハ第十六號證ニ依リ明瞭ナリ而シテ町村制第二百二十八條第四號ニハ懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ストノミアリテ他ニ何等法令上ノ規定アラザレハ郡役所ニ於テ審問セザリントノ理由ヲ以テ懲戒裁判ヲ違法ナリト謂フヲ得スト)(行政裁判所明治三十七年五月十四日第二郡宣告)

○金錢ノ授受ナキ前ニ作成シタル消費貸借公正證書ノ效力 金錢ノ消費貸借民法第五八七條ヲ爲スニ當リ先ツ公正證書ヲ作成セシメ而シテ後金錢ノ授受ヲ爲スハ常ニ見ル所ノ事實ナルカ斯ル公正證書ハ公正證書トシテ有效ナリヤ否ヤニ付キ大審院ハ判決シテ曰ク公正證書ニ記載シタル事項カ完全ノ證據

力ヲ有スルモノナルハ公證人規則第三條ノ規定スル所ナルカ故ニ本訴金圓貸借公正證書ニ付キテモ其證書ニ明記シアルカ如ク明治三十一年十二月二十三日本件當事者カ公證人廣瀬義親役場ニ至リ金千五百圓貸借ノ事實ヲ陳述シ公證人カ右陳述ニ基キ公正證書ヲ作成シタルコトハ固ヨリ否定スヘキニ非スト雖モ苟モ其貸借ニシテ眞實成立シタルモノニ非ス全ク虛偽ノ事項ヲ記載シタルノ事實立證セラルルニ於テハ該公正證書ニヨリ強制執行ノ債務名義ヲ發生スルノ效力ナキコトハ言フ俟タザルナリ而シテ原院ノ確定セル事實ニ依ルトキハ本件公正證書作成ノ當日金錢ノ授受ナク隨テ當事者間ニ同日消費貸借ノ關係成立シタルモノニ非サルカ故ニ若シ後日ニ至リ現實金圓ノ貸借アルニ於テハ其時新ナル債務關係ヲ生スルハ勿論ナレトモ本件ノ如ク虛偽ノ事項ヲ記載シタル公正證書ニヨリ執行力ヲ生スルモノニ非サルハ誠ニ明瞭ナリトス」ト

(大審院明治三十七年(大)第三百十號 不法辨濟金返還)
 (請求事件明治三十七年七月五日第一民事部判決)

學生募集

學則入用ノ向ハ
 申込次第送呈ス

本大學ニ於テハ梅總理、富井教頭ヲ始メ穂積、金井、岡野、岡田、高橋、松波、中村、山田、志田、美濃部加藤ノ諸博士其他新進ノ學士等數十名各専門ノ學科ヲ擔任シ懇切ニ私授ス九月十二日ヨリ新學年授業開始ニ付此際學生ヲ募集ス入學志願者速ニ申込ムヘシ授業ハ大學豫科ヲ除クノ外毎日午後五時三十分(土曜日ハ午後一時三十分)ヨリ始ム

○大 學 部

本大學大學豫科卒業生又ハ之と同資格者及中學校卒業生又ハ之と同資格者ニシテ入學志願ニ合格シタル者又ハ他ノ同等學校豫科卒業生ヲ入學セシム

○專 門 部 (法律科 實業科)

中學校卒業生又ハ之と同資格者ハ試験ヲ要セス正科生トシテ又本大學ノ銓衡ヲ經タル者ハ別科生トシテ其履歷ニ依リ試驗ヲ行フ

入學試驗
 編入試驗

來九月二十六日及十月三日(各午前八時)施行ス
 來九月二十六日及十月十二日(各午後五時三十分)ヨリ施行ス

○高等研究科

高等研究科學生ハ特ニ開ク講義ヲ聽聞スルノ外他ノ講義ヲ任意聽聞スルコトヲ得ルモノニシテ本大學卒業生又ハ他ノ同等學校卒業生ハ何時ニテモ入學ヲ許ス

○大 學 豫 科

中學校卒業生又ハ之と同資格者ニシテ編入試驗ニ合格シタル者ヲ入學セシム

○聽 講 生

本大學各都科ノ講義ヲ任意聽聞スルモノニシテ本大學ノ銓衡ヲ經タル者ハ何時ニテモ入學ヲ許ス

明治三十七年九月

司法部指定
 文部省認定

私 法 政 大 學

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地(電話番町一七四番)

法學志林

第六十一號
(九月十五日發行)

志林

- 統治ノ繼續
法學博士 井上 密
- 財産目錄ニ記載スヘキ財産及其
評價ヲ論ス
法學博士 松本 泰治
- 中立國逃入ノ交戦國艦
法學博士 中村 進午
- 最近判例批評
法學博士 梅 謙次郎
- 權利ノ新種類ニ就テノ研究(續)
法學博士 志田 御太郎

纂論

○露國新手法(ハ) 法科大學生 佐竹三吾

○商法第四百四十六條ニ所謂營業
所住所又ハ居所ヲ問合地以外ノ
場合ニ於ケル拒絕證書作成ノ場
法學博士 富谷銈太郎

解疑

○資本減少ノ目的ヲ以テ株式合併
株主ニ拂戻サントスル其金額ヲ各
力及其後ニ於テ爲シタル株式裏
渡ノ效果
法學博士 梅 謙次郎

寄書

○生命權ノ修害ニ因ル債權ヲ論ス
校 友 増田 時彦

其他判例、雜報、記事 數十件

明治三十七年十月三日印刷
明治三十七年十月六日發行

(定價金貳拾圓)

編輯
發行
東京市牛込區中込北町十番地
萩 原 敬 之

印刷者
東京市牛込區矢野町三番地
小 宮 山 信 好

印刷所
東京市芝區西ノ久保町倉町十一番地
金 子 活 版 所

東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所

司法省
指 定

法政大學

(電話番町百七十四番)

(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
毎月三十一日三十五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行